

五月十七日 遼陽橋元支庫長代理ヨリ電報午前十時五十分大連受

中野藥劑官ハ今朝奉天ニ出發セシメタ。

同十七日 歩兵第二十三旅團長ヨリ電報午後零時二十五分大連受

鈴木主計義藏今朝赴任セリ。

同十七日 鐵嶺前田支庫長へ電報午後二時大連發

三等主計正小野運八、一等主計鈴木義藏滿倉附トシテ貴地ニ來ル筈。二人共直グ大連ニ來ル様傳達スベシ。

同十七日 奉天支庫高橋主計ヨリ電報午後一時大連發

第二軍兵站糧餉部ヨリ心臺子ニアル糧秣全部受取リタキ旨申出アリ。

右ニ對シ直ニ心臺子ノ糧秣ハ我倉庫ニテ保管スベシト電命セシニ、同日午後四時十分更ニ左ノ電報アリ。

第二軍ニテハ此頃ノ雨ニテ糧秣ノ前送出來ズ。給與ニ差支ノ趣ニテ心臺子ノ糧秣全部同地兵站司令部へ交付セラレタキ旨申出アリ。右ノ事情ニ付キ

交付シタシ。

依テ更ニ左ノ如ク電報セリ午後六時四十分大連發

答跡デ間違ノ無イ様ニ兵站經理部長ヨリ本職へ電報ニテ請求スル様打合スベシ。其手續キサへ出來レバ心臺子ノ糧秣ヲ全部第二軍へ交付シテヨシ。

同十七日 第二軍兵站經理部長ヨリ左ノ電報アリ午後七時四十分大連受

連日雨天ノ爲メ陸路輸送滯リ「アンシンダイ」ニ於ケル糧秣補給ニ差支ヲ生ゼリ。就テハ心臺子貴倉庫ニ現在スル糧秣悉皆(若シ能ハザレバナシ得ル丈ケ)當兵站へ渡サレタシ○同地ニハ米十日分、麥二日分、副食調味品若干アリト○右渡サルレバ本日ニモ受取タシ。返待ツ。

右返電午後十時三十分大連發

答、心臺子ニアル糧秣殘ラズ同地兵站部へ交付ノ事承知ス。

斯クテ十八日ニ到リ鐵嶺前田支庫長及ビ奉天高橋主計ヨリ心臺子ノ糧秣ヲ悉

皆第二軍兵站へ渡ス事ニ取計ヒタル旨報告アリ。

五月十七日 前心臺子第三軍兵站經理部長へ電報午後一時四分大連發

高力屯當倉庫出張所ノ報告ニヨレバ五月第一旬ニ於テ貴軍へ交付セシモノ
米(一人四合割)百三分割麥(一人二合)二十六日分、罐詰鹽干魚(三分一量)合セテ
九十六日分、干野菜(三分一)九十九日分、漬物(半量)百日分、調味品百四十日分、大麥
六十六日分、酒四百七十八石、甘味品七千九百三十一貫、煙草四百七十九萬二千
本ナリ。之ヲ約算セバ毎日米割麥ヲ含ム九日分、副食約十日分、麥六日半分、加
給品約十二日分トナル。故ニ第一旬ハ八個師團ヅ、追送シアルモノト見做
サレタシ。此ノ計算ニ依レバ第二旬ハ更ニ若干ヲ加ヘラレ毎日九個師團以
上、第三旬ハ十二個師團以上十五個師團ノ平均ニナル見込。水路ト關外ノ輸
送積極的ニ行ハレザルハ營口ヨリノ前送力ナキ爲メニ非ズシテ營口迄ノ輸
送力ニ乏シキ故ナリ。今後其輸送力漸次加ハル筈ニ付積極的ニ該方面ノ前
送ヲナシ得ルノ時期ハ目前ニ來ルナラン。但シ下官ハ暫クノ後再ビ該方面

ニ出張スル積ナリ。

然ルニ同日第三軍兵站經理部長ヨリ左ノ電報アリ午後七時四分大連受

只今高力屯兵站司令官ヨリ左ノ電報アリタリ。

對頭灣ヨリ送り來ル糧秣ハ三日或ハ四日位ニテ其舟數モ僅カニ五十乃至六
十ニ過ギズ之ガ爲メ當部待命船ノ數本日ノ如キハ已ニ五百餘艘ニ至ルノ有
様ナリ。前送セントスル物資ノ少ナキニハ寧ロ閉口ナリ。續々追送アリタ
シ○本件ハ辻村(守備軍經理部長)ヘモ電シ置ケリ。

右ニ對シ更ニ左ノ如ク電報セリ午後十時三十分大連發

答、水路ト關外トニヨリ高力屯ニテ貴軍兵站部へ交付シアル高ハ先電通リナ
リ○兩線共目下猶増加スル様盡力中ナリ。

同十七日 宇品貨物廠長ヨリ電報午後五時三十分大連受

雨覆靴及襪五千九百七十九梱幸領ヲ附シ丹後丸ニテ二十一日貴地ニ著ク筈

同十七日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後八時四十分大連受

第一軍經理部長ヨリ、總司令部へ購買方頼ミ出デザルモ酒四百五十石、味噌三百貫、ビール八十打、醬油六十石分配シ得ルヤトノ電アリ。渡シテヨキカ。直グ返。右ハ購買數ノ約四分ノ一ナリ。

右返電午後十一時十分大連發

第一軍經理部長ノ依頼ニ應ジ酒味噌、ビール、醬油類ヲ分配シテ差支ナシ。但シ到着品ヲ成ルベク各軍平均ニ分タル、ヲ望ム。又貴官ヨリ同時ニ尾野(總司令部)參謀ト金子支庫長ヘ其旨通報シ置クヲ要ス。

五月十七日 高力屯出張所村岡主計ヨリ電報午後十一時大連受

第三軍經理部出張員ヨリ高力屯附近ニ駐屯シアル諸部隊ニ交付ノ爲メ薪五千貫ノ請求アリタリ。如何取計ンベキヤ。又將來ハ如何ニスルヤ、御指示待ツ。

右返電午後十二時大連發

答、薪五千貫第三軍經理部出張員ノ請求ニヨリ交付シテヨシ。但此後モ入用

ナラバ大江部長ヨリ本職へ請求アル様談ズベシ。

同十七日 大連本倉庫ニ於ケル會報ノ要領。

一 遼東兵站監部ハ先ヅ遼陽ニ置カル、筈。兵站監井口少將ハ來ル十九日東京出發ノ豫定。

二 十七日營口揚陸芙蓉丸ノ物品ニ左ノ腐敗品アリタリ。
米五百叭、麥二百叭、割麥百叭。

船長ノ言ニヨレバ既ニ大連出帆ノ時ヨリ腐敗シ居タルガ如シト云フ。積込ニハ十分ナル注意ヲ要ス。

三 鐵嶺要員ノ藥劑官ハ一等藥劑官松井彦三(同官ハ後遼陽支庫附トシ一等藥劑官川岡守三ヲ鐵嶺支庫附トス)

四 倉庫業務ノ多忙ヨリ生ズル種々ノ疾病者多シ。戰役ノ前途尙ホ遼遠ナリ。宜シク適當ナル休息ヲナサシムベシ。

五 波止場ノ鐵道敷設換ニ就テハ藤田主計ヲシテ協議セシメタレドモ倉庫

ハ暫ク成行キニ任ス考ヘナリ。

六 新ニ配屬スベキ小野主計正以下ノ要員ハ業務練習ノ爲メ一時本倉庫ニ召喚スル筈。

七 衛生材料ハ大入込箱ニテ來ルモノ多キヲ以テ分割シテ小入込トナスヲ要ス。之レガ爲メ從來明箱ヲ使用シ來タルモ目下明箱ノ不足ヲ感ズルニ至レリ。箱ヲ調辨スルノ必要アリト藥劑正ヨリ申出デアリ。

右ハ成ベク建築部ヨリ受クル様ニ交渉セントス。

八 輕便鐵道ハ踏切以外ニ於テ支那馬車ノ通過ヲ禁止スル様明日兵站監部ニ照會スベシ。

九 野口技手ハ明日ヨリ踏切リノ改造ニ掛ルベシ。材料ハ建築部ヨリ受取ルコトニ交渉濟ミナリ。差向キ背板百枚ヲ受取ルベキコト。

五月十七日 鐵嶺前田支庫長へ左ノ書面ヲ送付ス。

御手紙數通何レモ入手致シ候

鐵嶺建築ハ最後ニ御申越ノ通ニテ異存無之候得共一應建築部長ト協議シタル上ニテ着手スルコトニ致度同部長ハ昨日歸連ト申事故遅クモ今日ハ歸ルベシト思ヒノ外今ニ歸連無之ニ付其相談ノ結果ヲ御知ラセスル事能ハザルヲ遺憾ニ存候五千坪ノ外ニ更ニ八千坪一昨日軍司令官ヨリ大臣へ稟請濟ニ候

八千坪ノ内譯ハ

溝	2,000
ホム	1,300
材料	500
材料	300
服	500
屋	200
倉	300
計	8,000 坪

是レヨリ先キ三日前ニ經理長官ヨリ五千坪ノ事ニ就テ六ヶ敷申來リシ故一昨日電報ニテ答辨致置候

○石井部長トハ電話ニテ一昨夜大體相談致置候

五月十七日夜大連ニ於テ

日

匹

前 田 殿

鐵嶺準備員トシテ

三等主計正 小 野 運 八 一等主計 岡 本 興 明

一等主計 鈴 木 義 藏 三等主計 柳 本 鶴 三 郎

三等主計 山 内 茂 一 郎 主計職務心得山 本 久 太 郎

鈴木ハ本日鐵嶺迄着スル筈着セバ直グ大連へ行ケト命ゼラレタシ○小野
主計正モ同様ニ候

尙山崎カ和田ノ内一人ヲ明日石井部長ト相談ノ後ニ出發セシム

以 上

五月十八日 新民屯米田主計ヨリ電報午前二時五分大連受十

輕便線ハ明日夕完成ノ筈。明後十九日ヨリ運轉開始ノ豫定○第三軍へ臺車
一千臺請求セシニ竹島參謀長ヨリ返電アリ。七百臺ヲ渡スト。故ニ尙幾分
ノ馬車ヲ使用シ、此輸送力ノ不足ヲ補フ必要アリ○聞ク處ニ依レバ昨今露國
公使ヨリ袁世凱ニ向ヒ。關内ヨリ輸送スル禁制品(重ニ馬匹)ニ對シ再三、再四、
苦情ヲ持込ミ居ル由。去レド輕便線ニ就テハ昨今天津ヨリ到着セル鐵道總
辦陳ノ談ニ依レバ未ダ北京天津ニテハ之ヲ知ラザルモノ、如シ。同人ハ增
旗將軍ヲ迎フル旁、鐵道ノ視察ニ來レルモノナリ○輕便車臺ノ運轉ハ軍務官
トモ協議シ、目下ノ狀況全部苦力ヲ用フルコト、セリ。

同十八日 新民屯米田主計へ電報午前十一時十五分大連發

其地輕便鐵道臺車ニハ米ナラバイクラ、麥ナラバイクラ積メルカ。又幾人ニ
テ押セルカ實際ノトコロ返。

右返電二十日午前三時五分大連受

答、輕便鐵道ハ昨日竣工。今日ヨリ輸送ヲ始メタ○臺車一輛ニ米ナラバ十二

臥麥ナラバ(二斗入)十八臥三斗入ハ米ニ同シ積ミ二名ニテ押ス○今日ハ右岸迄一回ノ往復四時間半ヲ費シタリ○明日ノ結果ハ更ニ電報ス。

五月十八日 遼陽奉天鐵嶺仙金寨ノ各支庫出張所長へ電報午前十一時四十分大連發

今日ノ一列ハ李石寨ヲ止メ鐵嶺ニ遣ル。提理部ト協議濟ミ。

同十八日 午後一時四十五分鐵道提理部ヨリ電話ニテ左ノ如ク申來レリ。

來ル二十日ヨリ營口發三百九列ノ糧秣ヲ同第三百一列ニテ輸送スル事ニ改正ス。但シ貨車數ハ從前ト異ナル事ナシ。

同十八日 金子營口支庫長ヨリモ左ノ電報アリ午後五時二十分大連受

提理部ヨリ。「爾來營口發三百九列ニテ輸送セル貨物全部ヲ五月二十日ヨリ三百一列ニ變更シ、三百九列ハ十二輛以內ニテ軍需品ノ輸送ヲナス事ニ改ム」

ト電シ來レリ。依テ三百一列ニテ米ヲ送ル積リナリ。其レニテ差支ナキヤ。

三百九列ノ十二輛ハ糧秣列車トスレバ何ヲ積ムベキヤ。豫メ御指示ヲ乞フ。

同十八日 遼陽病院長ヨリ左ノ電報アリ午後六時六分大連受

當院ヨリ滿洲軍鐵嶺支倉庫へ轉屬トナリシ一等計手山本久太郎ハ本日出發赴任セシムル筈ノ處感冒ノ爲メ赴任セシメ難シ。四五日ヲ經バ快復スルナラン。

同十八日 遼陽橋元支庫長代理ヨリ電報午後五時四十分大連受

神尾參謀長ヨリ左ノ電アリ。明日立ダス○貴倉庫附一等計手進藤初太郎ハ十三日附三等主計ニ任ゼラレ、歩兵第二聯隊補充大隊附仰付ラル。至急赴任セシメラルベシ。辭令ハ赴任先ニアリ。

同十八日 軍役夫及消防夫ノ夏服ノ件ニ付左ノ如ク電報セリ午後六時四十分大連發

留守第十師團經理部長宛

貴部ヨリ送ラレシ。軍役夫五百名ノ夏服一切至急送ラレタシ。

留守第一師團經理部長へ電報

貴部ヨリ送ラレシ消防夫二百四十九名ノ夏服一切至急送ラレタシ。

右何レモ其後當該師團經理部ヨリ送付アリ。

五月十八日 撫順出張所矢野主計ヨリ電報午後十時二十分大連受

當地ニテ毎日鴨軍ニ交付シツ、アル糧秣始メハ全部撫順ニ運搬シタルモ昨今運搬力ノ都合ヨリ毎日約三分ノ一程ヅ、翌日ニ殘レリ。依テ當地經理部出張員及撫順兵站司令官ニ其糧秣保護ニ付注意シタルモ、雨覆ハ現今當地ニ全ク無ク、又近日到着ノ見込ミモ無ク、下敷用材料モ運搬力無キ爲メ急ニ送ル能ハズトノコトニテ、折角貴地ヨリ當地迄無事ニ着セシ糧秣モ少シノ間ニ雨ニ濡ラス恐レアリ。依テ遼陽ヨリ臨時列車ニテ雨覆薪等ノ送付方ヲ請求セシモ今明日ハ貨車ノ都合付カザル旨返電アリタリ。依テ貴官ヨリ鴨軍兵站經理部長へ照會ノ上最近ノ貴地發列車ノ内糧秣ヲ止メ雨覆大六十下敷用トシテ薪十車送ラレタシ撫順兵站司令部ニハ三十日分アリ○小官ハ右諸材料到着シ、又糧秣ノ運搬モ滯リ無ク出來得ルニ至リ次第歸ル積リ○糧秣ヲ止メ雨覆ヲ送ル事ハ十六日ト本日ト二回當地經理部出張員ヨリ同軍經理部長へ問合サセシモ今ニ返ナシ。

右返電午後十二時大連發

答、二十日一列ニテ雨覆ト薪トヲ送ル。

同十八日 遼陽橋元支庫長代理ヨリ電報午後十一時五分大連受

小野主計正着明日六列ニテ貴地ニ向ケ出發スルトノコト。

右ニ付左ノ如ク電報ス同夜一時十分大連發

小野ニ左ノ事ヲ傳ヘ直グ返電セヨ○受ケタル辭令ノ文面ヲ電報ニテ本職ニ直グ届出デヨ○別命アル迄其地ニ止マレ。

右ニ對シ遼陽小野主計正ヨリ返電同夜二時十分大連受

第六師團經理部長ヨリ左ノ電命ヲ傳ヘラル○本月十三日付滿洲軍倉庫附仰付ケラル。至急赴任スベシ。辭令ハ赴任先へ送ル。

依テ橋元支庫長代理へ電報十九日午前八時四十分大連發

小野ニ左ノコトヲ傳ヘヨ○直グ出發大連ニ來レ。

右ニ付鐵嶺前田支庫長ヨリ左ノ電報アリ十九日午前十五分大連受

小野ハ昨日、鈴木ハ本日着ク。貴地ニ向ケ出發ス。

次ヲ橋元支庫長代理ヨリ左ノ電報アリ午後十時五分

鈴木着ク、明日立ツ、小野ト進藤ハ今日立ツタ。

右ニ付、二十日午前十一時、至急鈴木ニ左ノ事ヲ傳ヘヨ。直グ出發當地ニ來レト

電報セシニ答、鈴木ハ第四列車ニテ出發セリトノ返電アリ。

五月十八日 鐵嶺前田支庫長へ電報午後十二時大連發

野戰經理長官ヨリ電命アリ。大工道具四十個第一軍兵站經理部へ渡セ。〇明

日十一刻ニテ送ル。

同十八日 雨覆ノ件ニ付守備軍經理部ヨリ電話ニテ左ノ通知アリ。

雨覆ヲ一萬三千(大、小)最前方ノ支庫ニ備へ置ケトノ經長命令デアルガ、其内

倉庫用トシテ六千、守備軍用トシテ八百

ヲ使用シテ差支ナキ旨經理長官部ヨリ申來レリ。之ニ依テ實行セラレタシ。

同十八日 守備軍軍醫部ヨリ左ノ通知アリ。

赤石一等主計ハ第二回手術後未ダ一週日ニ至ラヌ。今暫ク加療ノ上其結果

ヲ報告スベキ旨遼陽兵站病院長ヨリ中名生軍醫正ニ電報アリト。

同日又同經理部ヨリ左ノ通知アリ。

一等計手(主計職務)山本久太郎ハ本月十四日三等主計ニ任官セシ旨經理局主

計課長ヨリ辻村經理部長へ電報アリ

五月十九日 新民屯米田主計ヨリ電報午前三時大連受

今、法庫門ニ敵ノ騎兵出撃シ來リ激戰ノ上其一部ヲ擊退シタルモ新民屯ヲ襲

フモノ、如クナレバ警戒セヨトノ情報アリ。軍務署初メ非常警戒中。

同十九日 金子營口支庫長ヨリ電報午前七時四分大連受

第四軍ノ委託ニ依リ買入タル杉丸太ノ内末口三寸長サ四尺ノモノ三百本、末

口三寸長サ三間モノ二百本、素倉材料トシテ保管轉換ノ件御交渉ヲ乞フ。是

ハ雨期ニ迫リ材料ハナシ困却ノ餘リ同軍兵站經理部長ニ下協議ヲ試ミタル

ニ要求ニ應ズトノコトナリ。

五月十九日 蓋平兵站司令官ヨリ、腐敗米アリ。味噌醬油製造用トシテ遼陽若クハ營口支庫へ送り度トノ照會アリ。依テ遼陽支庫へ送ラレ度旨返電シ、同時ニ遼陽橋元支庫長代理へ左ノ如ク電報セリ正午十二時大連發

味噌醬油製造用トシテ蓋平兵站部ヨリ腐敗米約千二百石送ル筈。

同十九日 蓋平兵站司令官へ電報午後九時五分大連發

腐敗米ヲ遼陽若シク營口支庫へ送ラル、ニハ爲シ得レバ其俵裝ニ特別ノ印ヲ附セラレタシ。若シ出來ザル場合ニハ特別ノ宰領者ヲ附シ受領者ヲシテ間違ヲ生ゼシメザル様御注意アリタシ。

同十九日 遼陽橋元支庫長代理ヨリ電報午後零時三十分大連發

李石寨ニテ第一軍渡ノ糧秣缺乏ノ旨電アリタルニ付第一列ヲ同地へ廻スコトニシタシ。

右返電午後零時五十分大連發

答、一列ヲ李石寨へ廻シテヨシ○第一軍ニテハ同方面ニ多クノ糧秣ヲ蓄ヘア

リテ倉庫ヨリ今送ル必要ナシト思フ。篤ト調査セヨ。

同十九日 遼陽橋元支庫長代理へ電報午後一時十分大連發

撫順出張所ヨリ雨覆ト薪ヲ送レト通知アリテ未ダ送ラヌトノ電アリ。送ル事出來ネバ當地ヨリ送ル。返。

右ニ對シ左ノ返電アリ午後四時二十分大連發

答、雨覆ト薪五車ヲ今夜仙金寨へ、其外十二車ニ糧秣ヲ積ミ李石寨へ送ル○昨夜雨覆ト薪トヲ送リシガ之レハ李石寨ニ卸シタル故其儘ニナシ置キタリ。

同十九日 遼陽橋元支庫長代理ヨリ電報午後五時十分大連發

醬油釀造所用家屋徵用ノ事ヲ豫テ軍政署ニ委託シ置キタルモ中々涉ラズ。軍政署ニテハ持テ餘ストノコトニ付、倉庫自ラ徵用ノ手段ヲ取ラントセシガ、一應兵站司令官ニ相談セシニ幸、明日神尾參謀長來ルトノコトニ付、兵站司令官ヨリ一度同官ニ相談シ、其上扱フコトニ成レリ。

同十九日 安東縣出張所黒田主計ヨリ電報午後九時十分大連發

今日當所ヨリ約一里半ノ上流ニテ外察溝送リノ河船一隻轉覆ノ報アリ。積載品大麥四百八十噸ナリ。目下詳細取調中故分リ次第報告ス。

五月十九日 鐵嶺前田支庫長へ電報午後十二時大連發

大臣へ申請セシ八千坪建築ノ事ハ未ダ認可ナラザルモ其内ヲ引當テニ二百坪以内ヲ以テ鐵嶺支庫ノ附屬家ヲ直グ建テルコト石井部長ト協議濟ミ。尙貴官ヨリ奉天ノ佐澤班長ニ請求アレ。

同十九日 遼東守備軍司令官へ左ノ如ク申請ス。

明治三十八年五月十九日

滿洲軍倉庫長 日 匹 信 亮

遼東守備軍司令官臨時事務取扱男爵兒玉源太郎殿

申 請

鐵嶺ニ建築スベキ倉庫ノ内五千坪ハ營口ノ「ブ」シユ商會ヨリ職工等ヲ出サシムルコトニ相成候ニ付同商會ノ代員(日本人ナリ)及ビ土人職工等ヲ營口ヨ

リ鐵嶺ニ派遣セシメ度候間至急御許可相成度此段及申請候也

追テ其人員ハ其時々營口支庫長ヨリ同地兵站及停車場司令官へ通牒セシメ候間此段申添候也

同十九日 大連本倉庫ニ於ケル會報要領

倉庫長ハ大連ニ於ケル波止場ノ荷上グ及倉庫へノ輸送竝ニ倉庫ノ品物ヲ海岸ニ運ビ出ストコロノ實際ヲ目撃シテ左ノ數件ヲ篤ト研究スルノ必要ヲ認メタリ

(イ) 波止場ニ勤務シアル庫手及輸卒等ハ波止場ノ仕事ニ今一層熟練セシ

メテ今後來ルベキ雨期ニ最モ敏活ニ軍需品ヲ保護スルヲ要ス。

例へバ軍需品ヲ五俵積八俵積トシテ平ラニ竝ベルトキハ急雨ニ對シテ品物ヲ適當ニ保護シ得ズ、故ニ積出シ品陸揚グ品共凡ソ海岸ニ積載スルニハ假設一時ノ假積ミト雖常ニ堆積物ノ上方ハ屋根形ヲナス如ク積ムベク慣ラシ置クコト。而シテ此屋根形ニハ一定ノ方式ヲ保タシメ下

方幾竝ビノ場合ニハ幾百相積ナルコトヲ定メ置クガ如シ。

(ロ) 下敷ノ丸太若クハ薪等ハ其場所ニヨリ高サヲ一定スベカラザルコト

勿論ナレドモ十分ニ雨濕ノ浸染ヲ見込ミ寧ロ高キニ失スルヲ良トス。

乃チ下層一層ニテ足ルベシト思フ所モ二層ヲ重ヌル様ニスルコト。是

レ海岸ハ土地低ク又屢海波ノ打ツ處ナルヲ以テナリ。

(ハ) 陸揚グ品ヲ倉庫ニ送ルニハ是迄海岸ヨリ中繼ナシニ馬車又ハ「トロッ

ク」ニヨリテ收容セラレタリシガ、既ニ「レール」ハ海岸マデ引カレ又營口へ

ノ轉送益、頻繁トナルコトヲ願慮セバ、左ノ方法ヲ取ルコト今後必要ニア

ラザルカ。則チ現今碇泊場司令部ノ稍、西方ニ於テ一ノ中繼場ヲ置キ、波

止場ヨリ送ル品ヲ一旦此處ニテ中繼シ、然ル後倉庫へ送ルコト。此方法

ニヨレバ波止場ニ揚ル品ヲ最モ速カニ其位置ヨリ取拂フコト、ナリ、該

所ノ混雜ヲ防グヲ得ベシ。

(二) 海岸ト倉庫間ノ要所々々ニ監督者ヲ配置スルコト。

輪卒ハ馬車幾臺毎ニ又ハ「トロック」幾臺毎ニ幾名ト云フ割合ニ附屬セラレアルモ實際ハ其ノ效果著シカラズ。夫故此等ヲ要所ニ配置シテ監督者トナシ、是迄ノ馬車附又ハ「トロック」附ヲ全廢スルコト。其理由ハ臺車若クハ馬車ト同行スル輪卒ヲ見ルニ往々倦怠ノ狀ヲ顯ハシ、又ハ車馬ヲ叱咤シ之ヲ獎勵スルヨリモ寧ロ自身ノ身體ヲ馬車若クハ臺車ニ依テ運搬セラル、ヲ望ミ居ルニアラズヤトノ外觀ヲ呈スルモノナキニ非ズ。此ノ如キハ輪卒其モノ、怠慢ニアラズシテ方法ニ於テ未ダ盡サハル所アルニヨリ茲ニ至レルモノナラント察セラル。況ンヤ運動セル馬車ヲ監視シ其勤惰ヲ判斷セントセバ馬車ト共ニ行走スルヨリモ其傍ニ立テ全體ノ狀況ヲ目撃シアルモノニ如カザルニ於テヲヤ。是レ何人モ異議ナキ所ナラン。殊ニ其車馬ノ萬一危險ニ頻セントスル場合ニ之ヲ救助セシムルニハ其馬車ニ運バレルツツアル者ハ其傍ニ停立シアル者ニ及ハザルコト明カナリ。

(ホ) 倉入レ品ノ事ハ論ズル必要ナシ。倉出シ品ニ就テ實見セシ所ニヨレバ外装ノ甚ダシク破損セシモノアリ。或ル輸卒ニ就キテ其何レニアリシ品ナルカヲ問ヒ糺シタルニ東倉庫ヨリ運ビ來レルモノニシテ下積品ハ皆此ノ如ク古ビ居ル旨答ヘタリ。依テ其一梱ヲ持チ歸リ之ヲ開キ見ルニ(會報ノ席ニテ)果シテ異臭ヲ放チ麥ハ悉ク發芽シテ且ツ餘程ノ熱ヲ起シ居レリ。斯ノ如キ品ヲ營口ニ送ルハ甚不都合ナリ。本職ガ偶々巡視セシニ既ニ此事アリ。是迄トテモ之ニ類スルコトナシト云フベカラズ。但シ日々幾萬ノ梱包ヲ取扱ヒ而カモ海岸ニアル職員其數極メテ少ナキ故目ノ及バザル所處置ノ行届カザル所モアリシナラン。サレドモ其レガ爲メ不良品ヲ前送スルノ責任ハ決シテ免カルベキニアラズ。故ニ本日海岸ニ送リシ品ハ明朝殘ラズ検査シ十分良品ト認メシモノニ限リ營口へ轉送スベシ。但此事ハ池田主計之レガ主任トナリ藤田主計ハ此業務ヲ監督スベシ。

要スルニ此ノ夥シキ物品ヲ扱フニ就テハ倉庫員及輸卒隊共協同一致シ皆能ク業務ニ熟練シ互ニ事情ヲ疏通シ全體ノ力ヲ以テ其目的ヲ達セザルベカラズ。

以上ニ關シ各官意見アラバ遠慮ナク陳述セラレシコトヲ望ム。

五月十九日 小蒸汽船買入ニ關シ左ノ如ク申請セリ。

小蒸汽常盤丸第十永田丸買入並ニ乗組員備入ニ關スル申請

曩ニ營口支庫用トシテ小蒸汽船二隻買入ノ件御認可相成候ニ付仁川碇泊場司令部ニ依託シ小蒸汽船常盤丸ヲ壹萬五千圓第十永田丸ヲ八千八百圓(別ニ修繕費壹千四百圓ヲ加フ)ニテ買入レ常盤ハ五月九日第十永田ハ五月十三日營口ニ到着致候右常盤丸ノ乗組員給料等ハ別表ノ通りニ有之候第十永田丸モ之ニ準ズ以上御認可相成度及申請候也

明治三十八年五月十九日 滿洲軍倉庫長 日 匹 信 亮

遼東守備軍司令官臨時事務取扱男爵兒玉源太郎殿

常盤丸乗組人員並ニ給料月額表

甲 板 部		機 關 部	
職 名	給 額	職 名	給 額
船 長	四七〇〇 <small>四</small>	機 關 長	四七〇〇 <small>四</small>
水 夫 長	壹九〇〇	一 等 油 差	貳〇〇〇
水 夫	壹七〇〇	二 等 油 差	壹五五〇
水 夫	壹五〇〇	一 等 火 夫	壹五五〇
水 夫	壹參五〇	二 等 火 夫	壹貳〇〇
コ ッ ク	壹壹〇〇		

右ニ對シ左ノ指令アリ
遼東守第二六一七號

小蒸汽船常盤丸第十永田丸
買入並ニ乗組員傭入ニ關スル件
申請ノ通り認可ス

明治三十八年五月十九日遼東守備軍司令官印

同十九日 法庫門第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後九時四分大連受

藁靴ウーラ靴等奉天遼陽高力屯支庫ニ保管方依頼シタシ。 差支ナクバ夫々
命令セラレタシ。

右返電同夜一時大連發

答、貴軍ノ藁靴ウーラ靴等奉天及遼陽支庫ニテ保管スルコト承知ス。 高力屯
附近ノモノハ輕便鐵道ニヨリ成ルベク奉天へ送ラレタシ。

同十九日 神尾遼東守備軍參謀長ヨリ左ノ通牒アリ。
參第五二一號(五月十九日付)

營監部(遼東兵站)ハ本日編制完結シ明二十日ヨリ遼東守備軍司令部跡ニ於テ業務開始候間及御通知候也

追テ兵站監ハ陸軍少將井口省吾ニ有之候間申添候也

參第五一三號(五月十九日付)

遼東守備軍戰鬥序列ヲ解キ從來同戰鬥序列中ニアリシ諸部隊ハ遼東兵站部ニ編入セラレ候間及御通知候也

五月二十日 新民屯米田主計ヨリ電報午前五時五分大連受

第三軍兵站監ヨリノ通報ニ依レバ、本日午後三時法庫門ノ西南カウカシニアル我軍ノ一部ハ其南方コウシユリヨニアル敵ノ騎兵ト衝突シ、今夜之ヲ擊攘セントス。○昨夜來砲銃聲ヲ聞ク。今尙警戒中。金櫃書類ハ何時ニテモ運務署ニ持テ行ク如ク準備シアリ。停車場ニアル糧秣ハ明日朝皆送ルコトヲ得

同二十日 又左ノ電報アリ午後一時二十分大連受

今新民屯ノ北方約八里ナル公主屯ニアル松原中佐ノ報ニ依レバ十九日敵ノ騎兵六千北方約六里ナル「テイホウシン」ニ宿營シ今朝遠ク西方ニ迂回シテ新民屯ニ向ヘリ。○糧秣ハ努メテ送リツ、アリ。敵襲ニ對スル準備整ヘアリ。

同二十日 金子營口支庫長ヨリ電報午後三時十分大連受

米田ヨリ左ノ電アリ。○法庫門附近ニ出沒シタル敵云云前項ニ同シ。○糧秣ハ全力ヲ以テ高力屯ニ前送シツ、アリ。一昨夜來皆非常警戒中。○貴地送り出シハ二、三日ノ内減少セラレタシ。之レガ爲メ當地ノ送り出シハ一時中止ス。

右同日午後三時遼東守備軍經理部長へ通報セリ。

尙此件ニ付同日遼東守備軍司令部ヨリモ左ノ通知アリ。

電報五月二十日午後零時五十分法庫門發

同二時四十八分大連着

守備軍參謀長宛

竹島第三軍兵站參謀長ヨリ

公主屯(新民北方七里)ニアル後備步兵第五十四聯隊長ヨリ次ノ電報ニ接セリ。新民守備隊及公主屯附近ニアル後備步兵第十五旅團ハ數日來戰備ヲ嚴ニシ

敵ノ近接ヲ待チツ、アリ〇北方ヨリ退却シ來リタル井戸川少佐ノ馬隊ノ報告ニヨレバ敵騎約千五百後續部隊約五千今十九日午後長柵ヲ越へ南進シ今夜大秀水河子(公主屯北方約七里)ニ宿營セシモノ、如シ。

五月二十日 第九師團經理部長ヨリ電報午前十一時十分大連受

四月十一日野九經發第二九六號ニテ四、五月分メリヤス靴下三萬請求セシニ遼陽支庫長ヨリ四月分一萬五千ハ第三軍兵站部ニ交付セシトノ事ナルモ現品到着セズ。取調ベ中ナルモ至急入用故五月分トシテ一萬九千(人員増加ノ爲)送ラレタシ。

右ニ付同日午後一時十分鐵嶺前田支庫長へ綿メリヤス靴下一萬九千第九師團經理部へ急送セヨト電報シ、而シテ第九師團經理部長へハ左ノ如ク返電セリ。

答、靴下一萬九千ハ鐵嶺支庫ヨリ送ルコトニ支庫長ニ電シ置ケリ。

同時ニ遼陽橋元支庫長代理へ滿倉被第一九〇號第二軍兵站第一第七師團經理部ノ分ノ靴下足布ヲ急ギ鐵嶺へ送レ、次デ又被一四三號靴下交付命令ノ内第九

師團經理部五月分一萬五千ハ取消ス。ト電報セシニ同日午後三時三十五分左ノ返電アリ。

答、靴下ト足布ハ今日第五列ニテ前送ノ豫定〇第一四三號ノ靴下ハ本月五日第三軍兵站司令部へ渡シ濟ミ。

右ニ付第九師團經理部長へ電報午後四時十分大連發

靴下三萬四千足内三萬ハ遼陽ヨリ貴軍兵站部へ五日渡シ濟ミニ付四千足鐵嶺ヨリ送ル〇曩ノ電ハ取消ス。

同時ニ鐵嶺前田支庫長へ電報午後四時十分大連發

第九師團へ送ル靴下ハ四千足ニ訂正ス。

五月二十日 奉天總司令部尾野參謀ヨリ電報午前十一時十分大連受

少々問合セタキ事アリ。本日當部へ御出ヲ乞フ。貴官若シ差支アラバ前田主計正ニテモヨロシ。

右ニ付鐵嶺前田支庫長へ電報午後零時十分大連發

總司令部ニテ問合セタキ事アル趣ナル故本職ニ代ツテ貴官直グ出發奉天ニ至リ尾野參謀ニ面會スベシ○返。

右返電午後二時五分大連受

午後三時四十分立チ奉天ニ行ク。

右ニ付直ニ尾野參謀ヘ返電。

答前田主計正ニ直グ貴部ヘ出頭スベキ旨電命シ置ケリ。

次デ又左ノ如ク電報ス午後三時二十分大連發

前田ハ後三時鐵嶺ヲ立チ貴地ニ向フ。

同夜零時四十七分前田支庫長ヨリ電報

後七時半着直グ尾野參謀ニ會フタ。要件ハ鐵嶺倉庫建築ノ爲メ「ブツシユ」ノ代理日本人ト苦力トヲ派遣スルコトヲ守備軍司令官ヨリ照會アリタルガ爲メニシテ總司令部ハ日本人ヲ入り込マスコト、又「ブツシユ」其者モ大ニ忌避シ居ラル。此工事ハ他ノ手デ則チ建築班等ニテ成サシムル事出來ザルカト

ノ事ナリ。依テ該建築ノ既往ノ歴史ト急速ノ工事ヲ要スルト已ニ切組ミ迄出來上リ單ニ建前工事ノミ残り居ル丈ケニシテ今之レヲ他ノ手ニ移スコトハ出來難キ旨ヲ答ヘタリ。同官モ其レナレバ已ムヲ得ザル事ナリトテ左ノ要求アリ。

- (一) 日本人ノ數(十分少數)ト支那大工ノ必要數
- (二) 此ノ人員ノ嚴重ナル取締
- (三) 今回ノ五千坪以外ノ建築ハ「ブツシユ」ニ命ゼザルコト

右ニ付(一)ハ小官ニテ取締リヲナスコトニ答ヘタリ(二)ト(三)トニ付返待ツ。
右返電二十一日午前八時十分大連發

答(一)(二)モ總司令部ノ要求ニ應ズ○此外ニ守備軍ヨリ大臣ヘ八千坪(二千坪馬蜂溝、五百坪被服、三千坪糧秣、五百坪衛生、三百坪獸醫、二百坪附屬、千三百坪ホム)ヲ建築班ニテ建テルコトヲ請求シ置キタル故○其筋ヨリ總司令部ヘ問合セ來ルカモ知レズ。宜シク頼ム旨打合セ置クベシ○藤田ニ凡テノ要務ヲ齎

ラセ貴官ニ面會ノ爲メ本日立タス。着ク迄ハ其地ニアルヲ望ム。
次デ前田支庫長ヨリ左ノ電報アリ時三十一日午後六

今朝又尾野參謀ヲ訪ヒ至急鐵嶺倉庫建築員派遣許可ナル様談ジタ。既ニ許
可アリタル筈。更ニ八千坪建築ノコトハ確ツカリ談シテ置イタ。片山總經
理部長閣下ニモ右二件ヲ詳シク申上タ。建築員派遣ノコトハ同情ヲ表セラ
レタリ。八千坪ノコトハ最モ必要ヲ認ムル故委細承知セリトノコトナリ。
派遣員ハ事務員二名、日本人大工六、七名、支那大工二百人位ヲ要スル旨陳ベ置
キタリ。事務員大工ハ身元慥カナルモノヲ出ス様取計ハレ度派遣員ハ鐵嶺
以外ニ行クコトヲ豫メ嚴禁シ置カレタシ。

右ニ付金子營口支庫長へ電報時二十五日午後十

鐵嶺ニ建築ノ爲メ受負人ヨリ左ノ人員ヲ派遣スルコトヲ許可セラレタリ。
事務員二、日本大工六、七人、支那大工二百人。事務員大工ハ身元確ナルモノ。
以上ノ人員ハ鐵嶺以外へ出ルコト嚴禁セラル。右ニ付此制限ヲ守リ直グ實

行スルコトニ取計ラヒ電報アレ。

五月二十日 留守第一師團參謀ヨリ電報午後一時十

歸鐵工長一、計手四、看護長代用三、磨工一、從卒代用十二、五月十九日當地出發セ
シム。

同二十日 在奉天第四軍兵站經理部長ヨリ電報午後一時三十

當部ヨリ味噌、醬油、酢、購買依託ヲ受ケシコトナ、キ旨金子支庫長ヨリ電報アリ
タリ。然ルニ當部ヨリハ去ル十日生肉腐敗ノ件ト、蒟蒻粉返電ノ件ト、加給品
輸送ノ件ト、共ニ醬油三十六石、味噌千八百貫宛ヲ三日毎ニ酢十八石一回購買
アリタキ旨電報ニテ依頼シアリ。去ル十七日貴庫へ問合セタノハ此分ナリ。
御承知アリタシ。

右返電午後二時三十

答、承知セリ。早速營口へ申シ遣ス。何レニシテモ出來ル丈ケノ盡力怠ラザ
ル故安心セラレタシ。

五月二十日 奉天總兵站參謀長ヨリ電報午後一時二十分大連受

總兵站監部ノ事務ハ明二十二日ヨリ開始モラル、事ヲ通報ス。

同二十日 野戰經理長官ヨリ遼東守備軍經理部長宛左ノ電報アリタル旨通知アリ。

清國駐屯軍ヨリ滿倉へ引繼キタル天幕ノ種類携帶方錐形ノ區別及使用ニ堪ユル員數返電アレ。

右ニ付金子營口支庫長へ電報同夜一時十分大連發

清國駐屯軍ヨリ引繼ギタル天幕ハ何式ナルカ返。

右返電時二十一分午前十分大連受

答、屋形式ニシテ二百四十七現在セリ。

依テ更ニ受取リタル總數三百四十七ノ内使用ニ堪ユルモノト否トヲ區別シ同電セヨト電報セシニ左ノ返電アリ二十一日午後五時大連受

答、天幕二百四十七悉皆使用ニ堪ユルモノナリ。但シ當支庫ニ十七個丈御交

付ヲ乞フ。

右ニ付野戰經理長官へ左ノ如ク返電セリ二十二日午後三時十分大連發

答、清國駐屯軍ヨリ引繼受ケノ天幕ハ屋形式ニシテ二百四十七アリ。皆使用シ得ラルベシ。

尙同時ニ守備軍經理部長へモ同様通報セリ。

越ヘテ二十四日遼東兵站經理部長ヨリ清國駐屯軍ヨリ引繼ギタル屋形天幕二百四十七張ヲ第三軍經理部へ交付相成度トノ通牒ニ接シ、又第三軍經理部長ヨリ屋形天幕二百四十七貴庫ヨリ受クベキ命令アリタリ直グ送ラレタシトノ電報アリ依テ、同二十四日午後三時金子營口支庫長へ「屋形天幕二百四十七鐵嶺ニ送レ」ト電報シ、同時ニ鐵嶺前田支庫長へ「モ左ノ如ク電報セリ。

營口ヨリ屋形天幕二百四十七送ル。第三軍經理部へ渡セ。

五月二十日 梶塚糧秣廠長ヨリ左ノ電報アリ午後五時三十分大連受

兼テ御依頼ノ水産講習所出身者岩崎熊太ナルモノ一名出發セシム。辭令ニ

代ルベキ電報ヲ本人ニ發セラレタシ。給料貳拾五圓、履歷ハ郵送。

右ニ付左ノ如ク電報セリ午後八時十分大連發

岩崎熊太ニ左ノ通り傳達アリタシ○雇員ヲ命ズ月給貳拾五圓ヲ給ス○宇品碓泊場司令部ニ至リ便乗ヲ乞ヒ、大連ニ於ケル滿洲軍倉庫本部ニ出頭スベシ。同司令部ヘハ照會濟ミ○宇品迄ノ旅費ハ着ノ上渡ス。

同時ニ宇品碓泊場司令官ヘ「當雇員岩崎熊太貴部ニ出頭セバ大連迄便乗方取計ヒアリタシ」ト電報セリ。

次デ又梶塚糧秣廠長ヘ電報同夜一時大連發

岩崎熊太ニ打診棒其他食品検査ニ必要ナル器具ト書類ヲ買入レ携帯スル様傳達アリタシ。

五月二十日 第十師團經理部長ヨリ電報午後八時十分大連受

去ル十三日貴倉庫ヘ申込ミタル酒二百十二石、醬油三十三石二斗、煙草大和三百二十九萬本マダ到着セズ。右ハ過日第四軍經理部ヘ分配アリタル内ニ含

マレアルヤ。返待ツ。

右ニ付其旨金子營口支庫長ヘ電報セシニ左ノ返電アリ午後十時五分大連受

答、第十師團經理部長電報ノ酒、醬油、煙草ノ件全ク心當リナシ。購買送付スベ

キモノナルヤ、返。

依テ更ニ左ノ如ク電報セリ午後十一時十分大連發

第十師團經理部ノ酒、醬油、煙草ハ心當リ無クモ買入レ送ラレヨ。

同二十日 第一軍兵站經理部長ヨリ電報午後九時十分大連受

生牛肉ヲ送ラル、ハ當地ノ如キ缺乏ノ地ニテハ至極好都合ナルモ氣候ノ關係アルニヨリ一回約五百貫以内送ラレタシ。

右ニ付金子營口支庫長ヘ電報午後九時十分大連發

鶴田部長ヨリ左ノ電アリ。其ノ如ク取計ヒアレ。

○(以下前項ニ同シ)

同二十日 每田柳樹屯支庫長ヨリ電報午後十時五分大連受

副食丙種品ノ手入ハ場所器具等ノ適否實地ニ付會谷雇員ニ謀ラザレバ上申シ難シ。過日來待テ居ルモ來ラズ。幾日頃差向ケラル、ヤ。

右ニ付翌二十一日會谷雇員ヲ柳樹屯ニ派遣シテ検査セシメシニ其結果トシテ毎田支庫長ヨリ左ノ電報アリ午後二時四十分大連發

會谷検査ノ結果酒悅、山田納メ福神漬ハ不良丙種トシ再調セザレバ前送出來ズ。今揚陸中ニモ酒悅納メノ品アリ。此ハ検査スルニ良品ト認ム。前送シテヨキヤ。

右返電午後三時五十分大連發

答、検査ノ上良品ト認ムルモノハ前送スベシ。

五月二十日左ノ如ク命課セリ。

奉天支庫長兼勤ヲ免ズ

三等主計正

前田 伴 次

遼陽支庫長ヲ命ズ

三等主計正

小野 運 八

一等主計

橋元 勝 造

遼陽支庫長代理ヲ免シ奉天支庫長代理ヲ命ズ

奉天支庫附二等計手

小島 啓 三 郎

遼陽支庫附二等計手

鈴木 正 平

同 雇 員

加藤 豊 彦

右鐵嶺出張所ニ轉屬ヲ命ズ

右ニ付左ノ如ク電報セリ。

奉天高橋主計午後一時五十分大連發

一等計手小島啓三郎奉天支庫附ヲ免シ鐵嶺出張所附ヲ命ズ○前田主計正ハ

本日貴地ニ歸ル筈

遼陽橋元主計午後九時五十分大連發

二等計手鈴木正平雇員加藤豊彦ヲ鐵嶺出張所ニ轉屬ス。直グ奉天ニ至リ前

田主計正ノ命ヲ受クベシ。

右ニ對シ遼陽橋元主計ヨリ返電午後十時五十分大連受

答鈴木計手ハ遣リ掛ケノ仕事片付キ次第直グ奉天ニ出發セシムベシ○雇員
加藤豊彦ハ大ニ困ル。

遼陽橋元主計へ電報午後十一時四十分大連發

貴官ノ遼陽支庫長代理ヲ免ジ奉天支庫長代理ヲ命ズ。遼陽ノ後任者ハ小野
主計正今夜十一時出發赴任ス。申繼濟ミ次第赴任スベシ。

在奉天前田主計正へ

貴官ノ奉天支庫長兼勤ヲ免ズ○橋元一等主計ニ同支庫長代理ヲ命ゼシ故同
官へ申繼グベシ。

次デ又左ノ如ク電報ス。

奉天ノ小島計手、遼陽ノ鈴木計手、雇員加藤豊彦ヲ鐵嶺附ニ○小野主計正ヲ遼
陽ニ、橋元一等主計ヲ奉天支庫長代理ニ轉ゼリ○輸卒三隊ハ明日ノ内ニハ
大連ニ揚陸ノ豫定ナリ。内一隊ハ急ギ貴地ニ遣ル積リ。

五月二十日 遼東兵站經理部ヨリ左ノ通牒アリ。

經發第九號(五月二十日付)

今般遼東兵站監部ノ編成ヲ令セラレ昨日ヲ以テ動員完結ノ所同兵站經理部
長同金櫃部長同糧餉部長共從前守備軍ノ各部長ヲ以テ之ニ充テラレ候ニ付
爲念及御通知候也

五月二十一日 在奉天前田支庫長ヨリ電報午前一時十分大連受

高橋主計ノ請求ニヨリ兒島計手ヲ奉天支庫附ニ、古川計手ヲ鐵嶺支庫附ニ轉
勤ノ認可ヲ乞フ。小官モ之ヲ望ム○山崎雇員今日鐵嶺ニ歸ル○倉庫ハ三回
目ノ案則チ本線ニ竝行シタル支線ノ兩側ニ竝行ニ相對シ建ルコトニセリ。
是ハ將來ノ擴張ト鐵道支線ノ延長トヲ要スル時支線ノ増加ニ便ナリ。古川
鐵道技師長トモ今日尙熟議ス。

右返電。

小島ト古川交換承知。

同二十一日 新民屯米田主計ヨリ電報午前二時大連受

敵ハ益々近接シ新民屯ノ北方僅ニ日本五(六)里ノ所ニテ我軍ト對陣我軍不利ニ陥リシモノ、如シ。金櫃書類ハ己ニ梱包シ何時ニテモ軍務署内ニ一同ヲ連レ行キ籠城スル覺悟ナリ。糧秣ノ停車場内ニアルモノハ米麥合セテ約一萬七千呎ナリ之ハ明日全部高力屯ニ送ル豫定ナルモ苦力馬車ハ狀況ノ變化ニ依リ豫定數ヲ得難キヤモ知レヌ。

次デ又法庫門第三軍兵站經理部長ヨリ電報午前二時三十分大連受

敵兵南下新民屯ヲ襲フノ恐レアリ。其一部ハ三面船下流ノ水路輸送ヲ妨グルヤモ知レズ。明二十一日高力屯ヨリ船ノ輸送ヲ中止セリ。貴部ノ村岡主計(米田主計)ヘ通報スミ○新民屯ヘ應援トシテ歩兵一大隊半機關砲六門公主屯ヨリ出シタ。

五月二十一日 鐵嶺方面ニ於ケル各軍ノ給養狀況視察ノ爲メ一等主計藤田順ニ出張ヲ命ズ。同官ハ奉天ニ於テ先ヅ前田支庫長ニ會スル爲メ同日午前十一時大連ヲ出發セリ。

同二十一日 在奉天前田支庫長ヘ電報午前八時十分大連發

藤田ハ午前十一時出發セシム。

同二十一日 在奉天前田支庫長ヨリ電報午前十時二十分大連受

鐵嶺ニ派遣セラル、補助輸卒隊上陸セバ直グ設營隊ヲ派遣スル様隊長ニ命ゼラレタシ○同隊ハ汽車輸送アリタシ。

同二十一日遼東兵站監ヨリ左ノ命令アリ。

遼兵監參第五號

命令

本日上陸セシ第三師團第二十、第二十一、第二十二補助輸卒隊ハ自今貴官ノ指揮ニ屬セシム。

明治三十八年五月二十一日

遼東兵站監 井 口 省 吾

滿洲軍倉庫長 日 匹 信 亮 殿

右ニ付在奉天前田支庫長ヘ電報午後三時五十分大連發

第三師團ノ輸卒三隊今上陸本職ノ指揮下ニ入ル。内第二十隊五百人隊ヲ鐵嶺ニ遣ル。此外尙必要アラバ其程度申來レ〇一等主計鈴木義藏主計職務木崎甚藏ニ鐵嶺附ヲ命ゼリ。鈴木ハ午前十一時藤田ト共ニ出發セリ。木崎ハ明後日頃出發ノ筈。

右ニ對シ左ノ返電アリ午後七時三十分大連受

御配慮ヲ謝ス〇高力屯以北ノ水路輸送ヲ遼東兵站監ノ手ニ移サル、ト同時ニ通江口ニ倉庫出張所ヲ置キタキ意見ナリ。之レガ爲メ輸卒一隊ヲ宛テラレタシ。此ノ宛ミテ尙一隊ヲ前進セシメ置カレバ幸ナリ。第三軍ハ小塔子(通江口ヨリ上三里)ニ糧秣ヲ集積シツ、アルヤニ尾野參謀ヨリ聞ケリ。此ノ地ハ第三軍ノ爲メ便チレド第二軍ノ爲メ不便ナリ。此兩地ノ糧秣現在高ハ吉井ニ調査ヲ命ジ置テリ。

右返電同夜一時二分大連發

答〇請求通り第三師團第三十二隊五百人隊ヲ増ス。出發ハ第二十隊ト同時

ヲ筈。極リ次第電報ス〇庫手天連ヨリ先ヅ人選シテ三人新來者ノ内強壯者ヲ選ミテ五人建築専門ノ佐藤菊次郎モ此内ニアリ〇遼陽ト奉天ヨリ各三人宛ヲ鐵嶺ニ配屬ス。遼陽ノ人名ハ小野主計正ニ協議アレ。代リハ新來者四ヲ遼陽ヘ、三ヲ奉天ヘ本日出發セシムル筈〇計手モ綜合セ現在員ノ外ニ又六ヲ増シ十三人ニスル見込ミ〇水産卒業業者岩崎熊太今明日ノ内ニ東京立ツ筈。着ノ上ハ鐵嶺配屬ノ積リ。

同時ニ小野遼陽支庫長ヘ電報

其支庫ヨリ庫手三ヲ鐵嶺出張所ヘヤルベシ。人名ハ前田ヨリ協議スル筈。

加藤豐彦ノ代リト共ニ代人トシテ新來ノモノ四ヲ本日起任セシム。

五月二十二日 安東縣出張所黒田主計ヨリ電報午後二時大連受

十九日報告ノ外尙河船二艘轉覆ノ報アリ。詳細ハ取調ベノ上報告ス。

同二十一日 柳樹屯毎田支庫長ヨリ電報午前十一時五分大連受

昨年未受入新倉庫ニ格納ノ清酒ハ暑氣ニ向ヒ變味スルノ恐アリ。漸次營口

へ送りタシ。

右ニ對シ直ニ清酒ハ漸次營口ニ送ルベシト返電セリ。

五月二十一日 第一軍兵站經理部長ヨリ電報午後六時二十

薪二千貫ヅ、鐵嶺ニ送付方依頼セシニ鐵嶺ニハ未ダ來ラズ。遼陽支庫ヨリ

李石寨ニ送りアリト云フ。送り先違イニテハナキカ。但シ鐵嶺ニテハ貴倉

庫ヨリ貳千貫ヅ、交付ヲ受ケ居ル故給與上ハ差支ナシ。承知アリタシ。

右返電午後十一時二

答鐵嶺ニテ二千貫ヅ、渡シアルハ貴官ノ照會ニヨレル品ナリ。李石寨へハ

間違フテ卸シタリ。其レハ當分其儘ニシテアリ。但シ鐵嶺ノ二千貫モ此處

一兩日ノ外ハ交付スルコト六ツカシクナル。其譯ハ手紙(提理ニ苦情アルコ

ト)

同二十一日 仲仕三十一名補充トシテ到着セリ。依テ左ノ如ク配屬ス。

本倉庫 九名 遼陽支庫 十一名

營口支庫 五名 柳樹屯支庫 六名

五月二十二日 在奉天前田支庫長へ電報午前一時

高橋主計ノ奉天附ヲ免シ鐵嶺附ヲ命ズ。橋元主計着シテ後適宜出發セシメ

ヨ。

右高橋主計ハ後チ撫順出張所長ニ命課換ヲナセリ。

同二十二日 新民屯米田主計ヨリ電報午前零時三十

今日(二十一日)午後六時高力屯兵站司令官ヨリ第三軍兵站監へノ報告左ノ如

シ○敵ノ騎兵約六騎當地北方約千五百米突ニアル「チヨウサン」ニ顯ハル(遼河

左岸)

高力屯兵站司令官ヨリ左ノ電アリ○糧秣積込ミニ要スル船無イ。依テ明日

ハ輸送止メラレタシ。

今現在糧秣ノ内米十三日、麥一日七分、割麥百二十石、味噌千貫、茶十二日ハ構内

ニ集積シアリ。貨車ヨリ卸サルモノ米三百噸、麥百六十噸、割麥百十噸アリ

○情況ノ變化ニヨリ到着ノ儘貨車ヨリ卸サズ溝藪子若クハ營口ニ引返サシメ、又卸シタルモノハ情況ノ許ス限リ高力屯ニ送ル。今日ノ前途米五日八分、麥六日八分、鹽魚三千百三十六貫ナリ。

五月二十二日 高力屯村岡主計ヨリ電報午前十三時四分大連受

敵ハ左岸へ廻リ高力屯北約二千米突ノ處ニ五騎現ハレタリ○糧秣ノ處分ハ兵站部ト協力シ米麥約四萬捆船ニ積ミ監視ヲ附シ危險ノ場合ニハ下流ニ行クコトヲ命ゼリ○其他ノ物ハ船オキヲ以テ現地ニ置ケリ。之レ左右兩岸ニ敵兵顯ハレタルヲ以テナリ○當地守備隊ハ輪卒ヲ合シ二個中隊ナリ○今夕ニ奉天ヨリ増援兵到着スル筈。

同二十二日 在奉天前田支庫長ヨリ電報午前十時大連受

鐵嶺支庫石原主計ヨリ左ノ電

馬蜂溝兵站司令官ヨリ新民屯北方敵兵襲來ノ情報切迫ノ爲メ昨日ヨリ高力屯間ノ水路輸送停止セリ。本日ヨリ賞分毎日多量ノ糧秣送付アリタシ。否

ラザレバ馬蜂溝ニハ糧秣ナキ爲メ前途ハ自然中止スベシ。是非實行アリタキ旨申來レリ。依テ當鐵嶺兵站部ニ協議シ本日ヨリ馬車百五十ニテ送付ノコトニ取計ヒタリ○此事實尾野參謀ニ問合セタルニ然リトノコト。右ノ處置報告シ置ケリ。

右返電午前十一時十分大連發

答、新民附近敵襲ノ爲メ高力屯ヨリノ輸送ヲ一時中止セシハ事實ナリ。然レドモ此中止ノ影響ヲ十日以後ニナラザハ馬蜂溝ニ及バザル筈ナリ。故ニ更ニ他ノ理由加ハラザル以上ハ鐵嶺ヨリ馬蜂溝へ本日ヨリ急ニ糧秣ノ輸送ヲ爲ス必要ナカラン。

同二十二日 新民屯米田主計ヨリ電報午後二時四分大連受

敵狀ニ就テハ今朝カラ未ダ其後ノ變化ヲ聞カザルモ避難民ノ往來スルアリテ苦力馬車ノ多クハ逃亡シ輸送ニ大困難ヲ極ム○今日止ムナク三割増ノ賃金ヲ拂ヒ彼等ヲ集メ輸送シツ、アリ○若シ危險避クベカラザル時ハ糧秣ノ

搭載シアル貨車ハ一時溝帮子若クハ營口ニ避難セシムルコトニ驛長へ言ヒ
合メアリ。毎日荷卸シセバ直グ高力屯へ送り構内ニハ成ルベク積マザル方
針ヲ取り居ルコト。是迄ノ如シ○應援ノ爲メ一大隊砲六門今着イタ。

五月二十二日 遼東兵站參謀長ヨリ左ノ通報アリ。

第三軍兵站參謀長ヨリ電報午後十一時三十分法庫門發

敵ハ法庫門新民街道以西ノ地ニ引退セシモノ、如シ。由テ一時中止シ有
リシ水路輸送ヲ明二十三日ヨリ開始ス。

右ニ付對頭灣ヨリ上流ノ水路輸送ハ本日ヨリ開始スルコトニ命令セリ。

同二十二日 外松經理局長ヨリ左ノ照會アリ。

滿被第一五六五號(五月十五日付)

客年陸達第六十九號ニ依リ還送スル獸皮ハ鹽皮乾皮共其處置不充分ノ爲
メ往々輸送途中ニ於テ腐敗シ無効ニ屬スルノミナラズ甚シキ臭氣ヲ放チ
輸送船ヲ穢シ衛生上憂慮ニ有之候條將來ハ各糧餉部ニ於テ一應鹽皮又ハ

乾皮トナシ貴倉庫へ送付セシメ貴倉庫ニ於テハ大連營口及安東縣出張所
ノ各地ニ於テ更ニ完全ニ之ヲ處理シ梱包ノ上貨物廠へ還送スル取扱方ニ
該陸達ヲ改正致度意見ニ候得共目下貴倉庫ノ業務繁劇ヲ加へ尙右作業ニ
堪へ得ルヤ否ヤニ付一應貴官ノ意見承知致度依テ電報ニテ回答相成度

追テ右作業ニ付必要ナル土人ヲ使役セラル、ハ差支無之儀ニ付申添候
右ニ對シ左ノ如ク返電ス午後零時五分大連發

答、滿被第一五六五號還送獸皮ヲ當倉庫ニテ取扱フ件異存ナシ。

同二十二日 第二軍經理部長ヨリ電報午後一時十分大連受

雨覆使用數當部ノ請求數ト八十個ノ相違アレドモ長官ノ命令數丈ケ至急交
付アリタシ。右現品奉天以南ニ現在スレバ在奉天當軍兵站經理部へ鐵嶺ナ
レバ在鐵嶺當軍糧餉部出張員田口主計へ渡サレタシ。

右ニ付同日午後三時十分遼陽小野支庫長へ經長四〇五號第二軍ノ雨覆ハ渡シ
濟ミナルカ未ダナレバ鐵嶺へ送レト電報セシニ答第二軍ノ雨覆ハ去ル二十日

鐵嶺支庫へ全部前送セリトノ返電アリ。依テ鐵嶺前田支庫長へ電報午後十五分發大連

其地ニアル第二軍糧餉部出張員田口主計へ雨覆大二百八十五小千二百渡

同時ニ第二軍經理部長へ返電。

答雨覆ハ鐵嶺ニテ貴部員へ渡ス様電セリ。

五月二十二日 在奉天前田支庫長へ電報午後二時三十分發

貴官ノ奉天支庫長兼勤ヲ免ズ○橋元一等主計ニ滿洲軍倉庫奉天支庫長ヲ命ゼリ○赤石一等主計滿洲軍倉庫支庫長ヲ免シ營口支庫附ヲ命ゼリ。

同二十二日 小野遼陽支庫長へ電報午後三時二十分發

左ノ通り橋元ト赤石ニ傳ヘヨ○橋元一等主計滿洲軍倉庫奉天支庫長ヲ命ズ○赤石一等主計滿洲軍倉庫支庫長ヲ免シ營口支庫附ヲ命ズ。

右ニ付翌二十三日小野遼陽支庫長ヨリ橋元ハ本日午後一時五十五分發汽車ニ

テ赴任セリトノ電報アリ。

同二十二日 藤田主計ヨリ電報午後二時七分大連受十

零時三十分奉天ニ着タ。訓令ノ件傳達ス○鐵嶺へ前田主計正ト同行ス。

同日鐵嶺前田支庫長ヨリ電報

後八時藤田ト共ニ着イタ。

同二十二日 小野遼陽支庫長ヨリ電報午後六時四十分大連受十

矢野主計ノ報告ニ依レバ是迄糧秣ヲ仙金寨ニテ鴨軍ニ交付シタルヲ同地停車場附近ノ線路手入ヲ終リ本日ヨリ支線輕便線ノ側ニ貨車ヲ入レルコト、ナリ。今迄汽車ヨリ輕便鐵道ノ運搬ニ使用セシ輸卒隊ヲ輕便鐵道ノ後押ニ使フコト、ナリ大ニ運搬力ヲ増加シ毎日到達スル糧秣(約三十車分)ヲ全部其日ノ中ニ撫順ニ運搬シ得ルニ至レリ(撫順ニハ約一千坪ノ亞鉛倉庫アリテ一時之ニ收容シ毎日馬車ニテ前送シツ、アリ)故ニ今日迄ノ如ク後方ヨリ送付シ來ル糧秣ヲ全部交付シ同地出張所ニ殘置品ヲ作ラザレバ輸卒隊ヲ配屬

スルノ必要モ無ク又別ニ出張所員主計モ要セズ毎日列車毎ニ李石寨ヨリ長坂計手ヲ同地ニ出張セシメ交付ノ上其列車ニテ歸ラシムル事トセバ差支ナシト○右ノ通り實行シテ差支ナキヤ返

右返電 午後七時四十分大連發

答、將來鴨軍ノ補給上撫順ハ我倉庫ノ出張所ヲ要スベキ見込ミ故今ノ間ニ相當ナル場所ヲ占有シ若干ノ人員ヲ留メ置クコト必要ナラン。但シ其人員中ノ士官ハ時々遼陽ヨリ巡回スルコト、シテモヨカラシ。

五月二十二日 鐵嶺前田支庫長へ電報 午後七時四十分大連發

第一軍渡シ薪ノ交付ヲ中止スベシ○明日ヨリハ薪ヲ前送セズ。

右ニ對シ前田支庫長ヨリ左ノ電報アリ 午後十時三十分大連受

糧秣ハ日々増加スルノミニシテ下敷用ニ是非入用アリ。毎日薪十五車丈ケナリトモ送ラレタシ。

依テ金子營口支庫長へ左ノ如ク電報ス 午後十一時十分大連發

鐵嶺ニテ下敷用ノ薪入用ナリ。其地ニ品有ラバ至急出來ル丈多ク送レ。跡ハ直ク當方カラ貴地へ送ル○返。

同夜零時十分前田支庫長へ電報。

答、明日(二十三日)薪六十七車送ル。薪ヲ送ルコト提理部ニ苦情アリ。長ク送り難シ。故ニ太ク短ク送ル○追送ノ薪ハ當分下敷ノミニ用フベシ。燃料ニ用フル勿レ。第一軍へ薪ヲ渡スコト斷リ置ケリ。他軍モ同様トスベシ。

翌二十三日 金子支庫長ヨリ左ノ返電アリ 午前七時三十分大連受

薪ハ直ニ取集メテ送ルコトニ着手セリ。

同二十二日 第五師團經理部長ヨリ電報 午後十時五十分大連受

請求書第十一號四月分メリヤス靴下一萬八千二百枚支給ニ差支居レリ。至急鐵嶺迄前送アリタシ。

右ニ付遼陽支庫長へ被第一五二號五師團送リメリヤス靴下ハ何日何處へ渡セシカト電報セシニ、翌二十三日午後三時十二分答被第一五二號第五師團行メリ

ヤス靴下ハ四月二十七日第二軍遼陽兵站司令部ニ交付シ其前送方ヲ委託セリトノ返電アリ。

依テ第五師團經理部長ヘ其旨返電セシニ翌二十四日更ニ左ノ電報アリ。

昨日返電アリタル四月分トシテ請求セシ靴下ハ遼陽第二軍兵站司令部ニテ誤ツテ第四師團經理部ヘ宛發送セシユヨリ問合セ中トノコト。然ルニ目下給與ニ差支ヘ居ルニ付四師團ヨリ返送シ來ラバ五月分ニ差繼グコト、シ該員數至急更ニ送付ヲ受ケタシ。

右ニ付鐵嶺支庫長ヘ第五師團經理部ヘ四月分靴下一萬八千二百足渡セト電報シ、第五師團經理部長ヘ左ノ如ク返電セリ。

答、四月分靴下要求ノ通り更ニ鐵嶺支庫ヨリ渡ヌコトニ電セリ。受取ラレタシ。

五月二十二日 曩ニ梶塚糧秣廠長ニ依頼シ置キタル雇員卿右近良助(米麥類ノ検査ニ堪能ナルモノ)ノ件ニ付同廠長ヨリ左ノ電報アリ午後十時五分大連受

豫テ請求アリシ卿右近良助今ナラバ繰合セ出來ル。御入用ナリヤ、給料ハ今貳拾圓ナリ。

右ニ付其配慮ヲ謝シ卿右近ヲ雇員ニ採用スル旨返電セリ。

同二十二日 鐵嶺前田支庫長ヘ電報午後十一時五分大連發

第三師團第二十隊第二十一隊(一個小隊缺ク)ハ明二十三日前十一時七列ニテ大連發二十四日後五時貴地着ノ筈。同日夕食八百人ノ準備アレ、返〇二十一隊ノ殘リ一小隊(二百六十人)ノ出發未定。

同時ニ小野遼陽支庫長ヘ電報。

第三師團第二十及二十一輪卒隊(一個小隊缺)鐵嶺出張所ヘ派遣ノ爲メ明二十三日午前十一時七列ニテ大連發二十四日朝七時半貴地通過ノ筈。右兩隊八百人ノ朝食準備アレ、

同奉天高橋主計ヘ電報。

第三師團第二十及第二十一(一小隊缺)輪卒隊鐵嶺出張所ニ派遣ノ爲メ明三十

三日午前十一時七列ニテ大連發二十四日正午貴地通過ノ筈。右兩隊八百人ノ晝食準備アレ返。

右ニ對シ小野支庫長高橋主計ヨリ何レモ食事準備ノ件承知ストノ返電アリ。右輸卒兩隊出發ニ際シ同隊長ニ與ヘタル口達訓示左ノ如シ。

口達訓示 五月二十二日於大連

一 第二十及二十一兩輸卒隊ハ鐵嶺ニ於ケル我倉庫業務ニ從事スベシ該兩隊長ハ鐵嶺到着ノ時ヨリ同地滿洲軍倉庫出張所長ノ指圖ニ從ヒ業務ニ服スベシ。

二 第二十隊及第二十一隊(一小隊缺)ハ明二十三日大連出發鐵嶺ニ向フベシ

イ 行軍種類 汽車

ロ 乗込場所 大連第一ホーム

ハ 出發時刻 二十三日午前十時十分

其以前ニ乗込ミ終ル如ク準備スベシ。

ニ 隊用貨物

第二十隊ノ分悉皆ト第二十一隊ノ分ハ公用行李及ビ炊具トシ其他ノ貨物ハ跡ノ小隊ノ時ニ持行クコト。

ホ 乗車ニ關シ各兵ノ注意

A 乗車前水筒ニ湯ヲ容レ置クコト。途中ニテ生水ヲ飲マザルコト。

B 途中ノ驛名ト哩數時刻。

C 發車時ニ乘リ遅レザルコト。

三 馬匹ハ乘馬人員ニ對スル分悉皆

但シ車ノ都合ニヨリ殘ラズ積ミ得ザル場合ニハ第二十一隊ニ屬スルモノヲ次回ニ殘ズ。

四 行軍途中ノ食事

二十三日ノ晝食及ビ夕食ヲ携帯スベシ

二十四日ノ朝食ハ 遼 陽

二十四日ノ 晝食ハ 奉 天

同日ノ 夕食ハ 鐵嶺ニ於テ準備ス

五 行軍ニ關スル注意

乗車下車等ノ場合ニ誤テ負傷スルモノ往々アリ車ノ全ク止マラザル内ニ
下車スルコトナカレ又乗車ハ車ノ運行ヲ始メザル前ニ之ヲ終ルベシ。
殊ニ夜間ニ於ケル下車ニハ最モ注意スベシ。

六 人員點呼

途中食事ノ場所以外ニ於テモ數回人員點呼ヲナスベシ。

七 鐵嶺着ノ上ハ場合ノ許ス限リ軍隊教育ヲ施スコトヲ希望ス殊ニ戰線ニ
近ヅクニ從テ輸卒隊ノ動作ガ益々軍事的ナルヲ要スルコト勿論ナリ此要
求ヲ充タス爲メニハ教育ヲ施ス外ニハ他ニ良手段アルコトナシ。

八 明日乗車ノ爲メ營舎ヲ出發スルトキハ書面又ハ使者ヲ以テ本職ニ報告
スベシ。

超エテ二十四日鐵嶺前田支庫長ヨリ左ノ電報アリ午後九時一分鐵嶺發

第二十隊隊長(輜重兵大尉)以下五百九名第二十一隊隊長(砲兵少尉)以下二百
五十六名着ス。

五月二十二日 毎田柳樹屯支庫長へ電報午後十二時大連發

大連本倉庫ニテ急ニ輕便鐵道掛ケ換ヘヲ要ス。其地輸卒隊ノ内右工事ニ熟
技ノ者アラバ五人以上十人迄道具ヲ持タセテ直グ送ラレタシ。

同二十二日 金子營口支庫長ヨリ臺灣米搗精ノ糠四千五百袋掃寄米百袋入札
賣却シタキ旨申請アリ。依テ之ヲ認可セリ。

但糠一袋平均五斗入 米一袋平均四斗入

五月二十三日 第三軍兵站經理部長ヨリ電報午前二時法庫門發

法庫門ヨリ新民ニ通ズル街道以東ニハ最早敵兵ナシ○二十三日ヨリ高力屯
ヨリノ輸送ヲ始ム。新民ニハ歩兵二大隊機關砲十門守備シアリ。目下敵襲
來ノ形勢ナシ○通江口ハ倉庫地ニ不適當ニ付自今小塔子ニ集積スルコト、

ナレリ。此事ハ總司令部承認済ミ。

五月二十三日 金子營口支庫長ヨリ電報午前七時十七分 家屯電發

新民屯附近ノ敵情詳カナラザレドモ増援隊到着ノ報ニ接シタル故本日ヨリ六百噸位ヲ出ス○米田主計ヨリノ電報要領左ノ如シ○二十二日ヨリ賃錢三割ヲ増シテ漸ク「トロツク」六十六馬車九十五ヲ集メ得テ糧秣ヲ前送セリ。高力屯出張所ハ兵站司令官ノ注意ニヨリ遼河左岸ニ移レリ。

右ニ付同日午前八時二十分總司令部尾野參謀及ビ法庫門大江部長竝ニ鐵嶺前田支庫長へ「敵襲危険去リタルト新民ニ増援隊着セルニヨリ本日ヨリ關外鐵道ヲ元ノ如ク利用ス」ト電報セリ。

同二十三日 午前十時四十分高力屯發米田主計ヨリ電報

今此ノ地ニ來リ情況ヲ視察ス。兵站司令官曰ク事務ハ今日元ノ如ク右岸ニ移シ警戒ヲ解ク○敵此地ニ前進シ來ル模様ナクナレリ○三面船モ此ノ情態ニ復シタルナラン。今日ヨリ水路輸送ヲ始ムル旨通知スト○新民ヨリハド

シく送ル。見合セタル牛ノ買入モ始ムル筈○下官ハ今ヨリ歸ル。

右遼東兵站經理部長へ通報セリ。

同二十三日 鐵嶺前田支庫長へ電報午前十一時三十分 大連發

敵襲ノ爲メ中止アリシ水路輸送ハ高力屯ノ上流及ビ下流共本日ヨリ開始セラレタリ。

右高力屯ニ於ケル警戒解除ノ件ニ就テハ同日高力屯村岡主計及奉天高橋主計ヨリモ亦各報告アリ。

依テ同日午前十時十五分遼東兵站參謀長同經理部長へ左ノ如ク通報セリ。

敵襲ノ危険去リタルト新民ニ應援隊着セルトニヨリ本日ヨリ關外ノ輸送ヲ元ニ復セリ○本日ハ營口ヨリ六百噸出ス筈。

同二十三日 金子營口支庫長ヨリ電報午前七時三十分 家屯電發

生牛ヲ汽車ニテ送ルコトニ手配中ナルヤニ聞ケリ。果シテ此事アリヤ。牛ハ追々手ニ入ル見込ミナルモ送り方ニ困リ居レリ。試験的ニ有蓋貨車ニ氷

ヲ敷キ麻袋ニ包ミテ其上ニ生肉ヲ積ミテ送り居レリ。氷ハ支庫ニテ貯藏セシモノヲ用フ。御承認ヲ乞フ。〇生内ハ極ク淡ク鹽積ケトシテハ如何

此件ニ付鐵嶺前田支庫長ヨリ左ノ電報アリ時二十四日午前二時二十四分鐵嶺發

第二軍經理部長ヨリ左ノ電〇過日來貴倉庫ヨリ交付セラル、生肉ハ各師團共分配迄ニ腐敗多キ故今後ノ補給ヲ見合セ代リニ壓搾干草ヲ補給セヨト度、右ニ付金子營口支庫長へ電報時二十四日午前六時三十分大連發

牛肉ハ交付先ニ於テ腐敗スル故補給ヲ中止ス。

尙鐵嶺前田支庫長へ返電時三十四日午前十時三十分大連發

答、生肉ノ追送中止ヲ營口へ電報セリ。〇干草ノ補給ハ計畫ヲ立テ、後通報ス

〇第二十一隊ノ中輸卒三名當本部へ助手トシテ殘シ置ク。同隊長へ傳達ス。

五月二十三日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前九時四分鐵嶺發

開原ノ鹵獲高粱第二軍ノ各師團ヨリ請求アリ。交付ノ爲メ鈴木主計ニ下士

一、兵一ヲ附シ、本日同地ニ出張セシム。同官ハ用向ヲ終へ次第下士以下ヲ同地ニ殘シ當地ニ復歸セシムル豫定。同地ニハ高粱一千石ト外ニ粟アリ。

右即時遼東兵站經理部長へ通報セリ。

同二十三日 奉天總兵站參謀長ヨリ電報。

從來當部へ提出セラレタル糧秣蓄積量諸報告ハ自今總經理部長ニ宛テラレタシ。

右直ニ鐵嶺、奉天、遼陽、新民屯、高力屯ノ各支庫、出張所長へ電報セリ。

同二十三日 鐵嶺前田支庫長へ電報正午六時大連發

大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報ノ中ニ〇通江口ハ倉庫地ニ不適當ナル故自今小塔子ニ集積スルコト、ナレリ。此事ハ總司令部承認濟ミト。

吉井ヲシテ通江口及小塔子ノ兩所ヲ調査セシメヨ。

其後前田支庫長ヨリ前方ノ倉庫地選定ノ事ハ既ニ吉井ニ命シタリトノ返電アリ。

五月二十三日 鐵嶺前田支庫長及ビ奉天高橋主計へ電報正午大連發

大豆ノ鹵獲品アラバ其數量ヲ知ラセ。

右ニ對シ奉天高橋主計ヨリ返電午後二時三十分大連受

答、大豆百十九石ノ内九十四石遼陽支庫へ送り、残り二十五石アリ。外ニ黒大

豆二十三石二斗アリ。

鐵嶺前田支庫長ヨリ返電午後五時二十三分大連受

鹵獲大豆一萬二千四百三十六石、鹽三十九萬四千五十斤アリ。日本度量ト支

那度量トノ比較ト此ノ數量ニ尙調査ヲ要スル點アリ。調べ濟ミ更ニ報告ス。

大豆ト鹽トハ今梱包中ニ付味噌製造用トシテ後送シタシ。御承認アリタシ

尾野參謀へハ協議濟ミ。

右ニ付鐵嶺前田支庫長へ電報二十四日午後一時大連發

大豆七百二十石營口支庫へ至急送レ。

同二十三日 金子營口支庫長へ電報午前九時十分大連發

二十二日ノ前送報告ニハ水路ニテ木炭ヲ送リアリ。業務計畫書ニハ薪ノ事ニナツテ居ル。取調べ返。

右返電午後零時二分家電發

答、船底船ベリノ水氣除ケニ薪ノ在庫品ナカリシ爲メ木炭ヲ送付セリ。

本日關外ニテ送付スベキ米四百五十俵ヲ積ミタルジャンク風波ノ爲メ西營

口ニテ沈没セリ。

同二十三日 小野遼陽支庫長ヨリ岡本ノ着任迄矢野ヲ當方ニ止メ置キ差支ナ

キヤトノ電報アリ。依テ矢野ハ岡本着迄其地ニ止メテ置キテヨシト返電セ

リ。

同二十三日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前九時八分鐵嶺發

川岡藥劑官二十一日、鈴木主計遼陽ノ鈴木計手奉天ノ古川計手二十二日着任

ス。

同二十三日 鐵嶺前田支庫長ヨリ藤田主計今夜九時四十五分ノ汽車ニテ貴地

テ歸ル下ノ電報アリ。

五月二十三日 小野遼陽支庫長へ電報午後九時十分大連發

三等主計山内茂一郎ニ鐵嶺出張所附ヲ命ズ。直グ出發セシメヨ。代リハ鐵嶺ニ向ヒ本日午後九列ニテ大連ヲ發シタル主計職務木崎甚藏ニ遼陽附ヲ命ズ。同官ハ明二十四日午前十時半貴地ヲ通過スル筈。傳達スベシ。

同時ニ鐵嶺前田支庫長へ電報

木崎ヲ遼陽支庫ニ轉ゼリ。○代リニ遼陽ノ三等主計山内茂一郎ニ鐵嶺附トシテ直グ赴任ヲ命ゼリ。

右ニ對シ小野支庫長ヨリ「山内ハ明日七列ニテ出發セシム」又二十四日午後一時一分遼陽發ニテ「木崎着イタ」下電報アリ。

同二十三日 留守第十一師團經理部長ヨリ電報午後五時五十分善通寺發

四月二十二日附善通寺俘虜收容所附主計職務取扱ヲ命ゼラレタル本多計手ハ本月十四日附主計ニ進級補職ノ辭令ハ本省ヨリ到着ニ付留メ置ク。直ク

立タシメラレタシ。

右返電午後十時十分大連發

答、委細承知ス。本多ハ直グ出發セシムル様營口支庫長へ電報セリ。

同時ニ金子營口支庫長へ電報。

本多ハ主計任官善通寺俘虜收容所へ、中村モ任官歩兵第二十二補充隊へ至急赴任セシムベシ。

右ニ對シ左ノ返電アリ二十四日午前六時四十八分半家屯發

中村主計ハ當地支庫附ニ命課換へノ御取計ヲ願フ。同人ハ今糧秣被服事務ノ中心トナリテ服務シ居レリ。今ノ所同事務ニハ同人ノ外主計モ計手モ居ラス。今取ラレテハ支庫ノ同事務ハ停止ノ姿トナル。之ニ代ハル計手ハ無論ナシ。本多ノ代リヲヤレバ殘員三人ノミ。主計モ二人ノ缺員アリ。事務ノ多忙ノ時故是非中村ヲ引留ムルコトニ御盡力ヲ乞フ。

次ヲ又左ノ電報アリ二十四日午前八時三十分家屯發

本多ノ代リニハ本日利根川一等計手ヲ派遣ス(水路輸送監督ノ爲メ)

右中村据置ノ件ニ就テハ早速其筋へ申立ノ上主計課長ヨリ返電ヲ得タリ。依

テ金子營口支庫長へ左ノ如ク電報ス時四十五分午後六時大連發

中村ハ營口ニ殘ルコトニ上申濟ミト主計課長ヨリ報アリ〇一等主計赤石雄

作ヲ貴倉庫附トセリ。但シ入院中。

五月二十三日 第三師團第二十一補助輸卒隊第二小隊鐵嶺出張所附トシテ出

發ニ付同小隊長ニ訓示スルコト左ノ如シ。

口達訓示

一 第三師團第二十一隊第二小隊ハ明二十四日出發鐵嶺ニ至リ本隊ニ合スベシ。

二 大連ヨリ鐵嶺マデ汽車旅行トス其方法左ノ如シ。

イ 乗込場所

第一ホーム

ロ 列車番號

第七

ハ 發車時刻

午前十時十分

ニ 有蓋車一無蓋車四

以上荷物ニ對シテ

ホ 有蓋貨車七

以上人員ニ對シテ

ヘ 貨車一

以上馬匹ニ對シテ

三 宿舍ハ右發車ノ時刻前ニ乗車シ終リ得ル如ク出發スベシ

四 汽車行軍間ノ心得及途中糧食給養ニ關スル件ハ昨日與ヘタル訓令ニ同シ。

五 鐵嶺ニ到ラハ滿洲軍倉庫出張所ニ届出デ然ル後本隊ニ合スベシ。

六 第二十隊ノ殘留員五名及馬三、車輛三十七ハ共ニ鐵嶺ニ輸送スベシ。

右ニ付遼陽奉天鐵嶺ノ各支庫長へ電報スルコト左ノ如シ午後十時五分大連發

第三ノ第二十一隊第二小隊二百五十鐵嶺ニ行ク爲メ明二十四日前十一時七

列ニテ大連發二十五日前七時半遼陽通過、正午奉天通過、後五時鐵嶺着ノ筈。

朝食、晝食、夕食ノ準備アレ、返。

右ニ對シ何レモ食事準備ノ件承知トノ返電アリ。

後、鐵嶺支庫長ヨリ電報二十時鐵嶺發

第二十一隊ノ殘部二百六十一名昨夜着イタ。

五月二十三日 大連本倉庫ニ於ケル會報要領

- 一 大連ニ於ケル本倉庫業務區域境界ノ標本中曩ニ守備軍司令部會報ニ於テ設定セラレタル業務地域境界ト相違セル部分ヲ打直スコト
- 二 敵狀ハ大ナル變化ナシ。第二第四軍ノ前方ニ敵ノ偵察隊顯ハル。
- 三 井口兵站監ハ安藝丸ニテ來着ノ筈。
- 四 大連遼陽間ニ長距離電話架設セラル、筈。
- 五 戰場ニテハ時々ニ狀況變化スルコト勿論ナリ。故ニ豫メ次ノ糧秣計畫ニ入用ナル過去ノ事實ヲ調査シ置カザルベカラズ。
- 六 清水主計ハ明日(前)八時出發(後送)ノ筈。
- 七 新海藥劑官ハ遼陽ニ於テ眼病ノ爲メ入院。

八 倉庫業務ニ從事スルモノハ ノ徽章ヲ必ず左腕ニ付スベキコト。

九 遼東兵站監部ヨリ左ノ通知(口達)アリ。

當地使用區域境界標本内ニ於テ穿土建築其他土地使用ニ關シテハ直接當部へ協議セラレ度ト。

五月二十四日 遼陽兵站病院ヨリ電報午前一時五分遼陽發

滿洲軍鐵嶺支庫設置要員ヲ命ゼラレタル元當院附一等計手山本久太郎ハ昨

二十二日「チブス」疑似症ニテ當院ニ入院セリ。

翌日ニ至リ更ニ左ノ電報アリ。

目下入院中ノ山本一等計手本日「チブス」ニ轉症ス。急治ノ見込ミナキニ依リ、將來後送ノ筈。

右補充ノ件ニ付テ辻村遼東兵站經理部長へ協議セリ。

同二十四日 第四軍兵站經理部長ヨリ電報午前十一時發

生野菜ヲ營口ヨリ送ラレ大ニ安心セシニ付夫々報告致シ置キタリ。尙續イ

テ送ラレンコトヲ切望ス。加給品ノ酒九十石、煙草百八十萬本送ラレタシ。
輸送力ハ前回通リニテヨシ。大連ニテ澤庵漬一千樽購買ヲ依託ス。運搬力
ハ干草ヲ減ジテヨシ。出來ルヤ、返待ツ。

五月二十四日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前十一時一分鐵嶺發

今泉獸醫正前方師團ヲ巡視セラル。遊佐獸醫ヲ同官ニ同行セシメ我獸醫材
料及蹄鐵ノ實際ヲ實視セシメタシ。遊佐ハ本日當地ニアリ。

右ニ對シ遊佐獸醫今泉獸醫正ニ隨行ノ件同意ト返電セリ。

同二十四日 金子營口支庫長ヨリ電報午前十一時四分家發

生肉ノ代リニ干草前送ノ件第二軍經理部長ノ要求アリト前田支庫長ヨリ電
アリ。三一五列ニテ若干ノ干草ヲ送リテハ如何。直グ返。但十五個師團分
ノ副食物ハ十七貨車アラバ十分ナリ。

同二十四日 新民屯米田主計ヨリ電報午前二時新民屯發

今朝(二十三日)軍務署ニ達セル諸種ノ情報ヲ綜合スレバ公主屯ノ北方ナルヨ

ウモウダイ及シヨトウノ西方ナル秀水河子ニ在リシ敵ノ主力ハ我支隊ノ活
動ヲ偵知シ、二十二日ヨリ退却ヲ始メ、其先頭ハ康平ノ岸ヲ通過シ北進セリ。
今日警戒ヲ解キタリ。此地守備兵ガ停車場附近及市街ニ築キシ幾多ノ塹壕
、ヨリ這出テタル等ノ爲メカ民心稍、落付キ苦力モ隨テ集リ殆ド平日ノ如ク
輸送ヲ爲スコトヲ得タリ。

同二十四日 金子營口支庫長ヨリ電報午後八時十分家發

五千坪(鐵嶺倉庫)ノ材木ハ今日迄ニ百六十車ニテ三棟分以上ヲ送レリ。今後
五十車アラバ亞鉛板其他殘ラズ送り得ル見込ミ。

同二十四日 奉天高橋主計ヨリ電報午後七時十分奉天發

戦利品ノ内還送スベキモノ本日本倉庫ニ向ケ發送シ終ル。其他ノ被服、雜品
處分中委託購買ノ煙草ハ分配終リ代金徵集中。以上二件ヲ終リ結果ヲ總司
令部ト貴官ニ報告シタル後鐵嶺ニ行キタシ。前田支庫長モ承知。右御承認
アリタシ。

此件ニ付橋元支庫長ヨリモ亦電報アリ。依テ承知シタル旨返電セリ。

五月二十四日 倉庫長ハ碇泊場司令官ト左ノ約束ヲナス。

- 一 倉庫本部ニ充ツベキ青屋根家屋ノ裏ニアル山口海軍中佐ノ宿舍ト其西北方ニアル碇泊場附下士宿舍(二階建)トノ間ニ在ル家屋(一部ヲ物置キトナシ一部ハ海軍ノ寫真師住居ス)ヲ滿洲軍倉庫ニ明ケ渡スコト。
- 其期日ハ明二十五日ヨリ向七日間即五月盡日迄ニ格納品ヲ他ニ搬出シ而シテ我倉庫ニ引渡スコト。

- 二 倉庫ハ右引渡ヲ受ケシ後構内ニ於テ此物置ノ周圍ニ構築物等ヲナサルコト。其趣意ハ碇泊場ノ人員ガ其前ニ在ル井戸ノ使用ニ妨グアルモノ例セバ垣ノ如キモノヲ設ケヌト云フ義ナリ。

- 三 物置ノ前面ノ下士宿舍ハ其下士ヲ移シ得ベキ場所ノ供給ヲ受クレバ何時ニテモ明ケ渡スコト。

但シ其場所ハ碇泊場ノ業務ニ甚シキ不便ナラザルト竝ニ下士相應ノ待遇

ヲ受クルニ足ルダケノ家屋タルヲ要ス。

同二十四日 兵站監部ニ於ケル會報ノ要領。

- 一 井口兵站監ハ安藝丸ニテ早ケレバ今晚遅ケレバ明朝着ノ筈。
 - 二 鴨、一、二軍ノ方面、敵情大差ナシ。
 - 三 三軍方面、敵ノ大部隊襲撃セシモ、二十一日夜大秀水河子へ退キ、二十二日夜更ニ退テ長岡子ニ宿舍セリ。同地以南ニハ敵ナシ、追撃中。
 - 三 新民屯へ南下セシ敵ノ爲メニハ別ニ損害ヲ被ラズ。
 - 四 後備第二十四旅團二十五日ヨリ交替ヲ開始ス。
- 大體ノ配置大差ナシ。

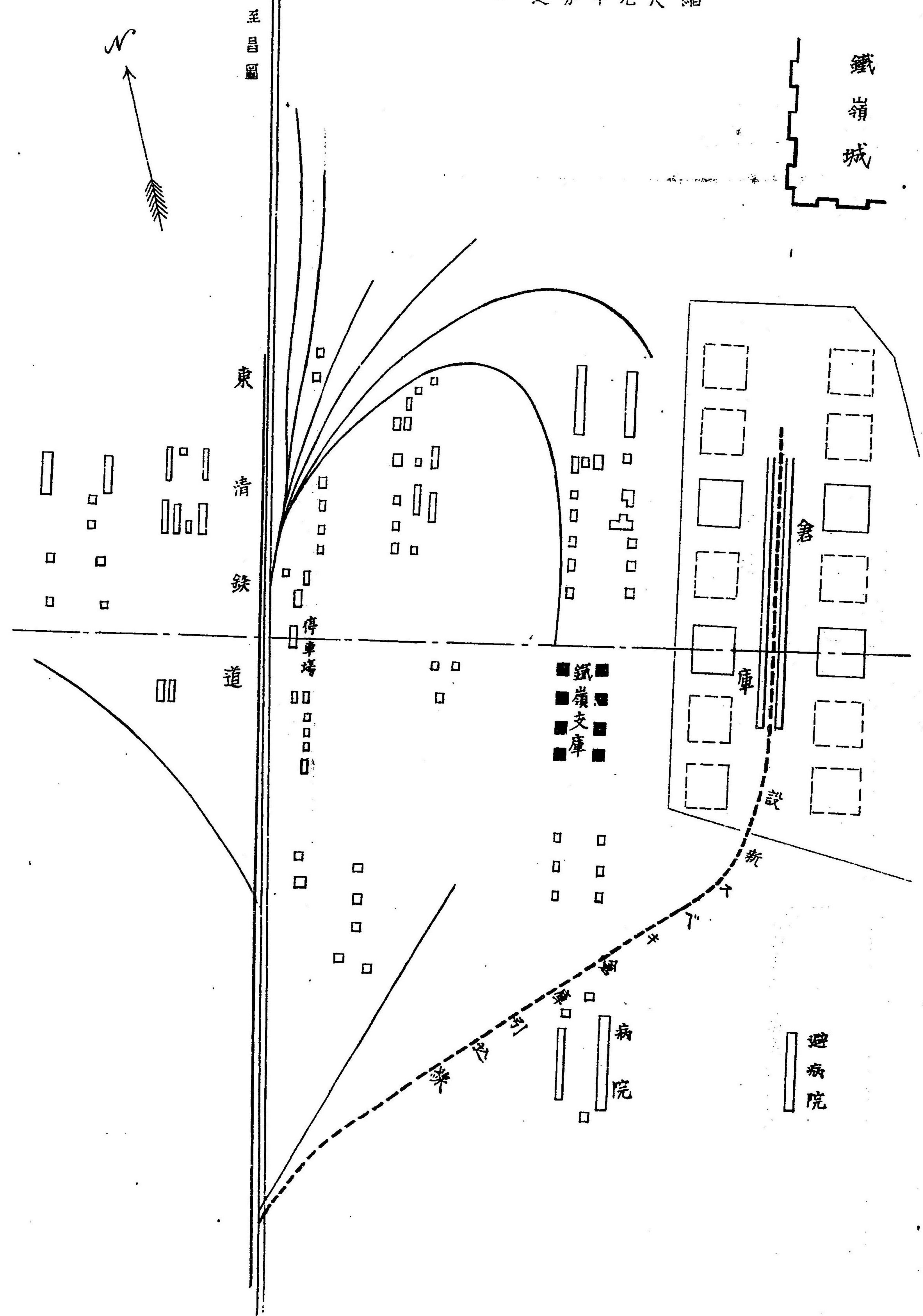
大連ニ來ルハ歩兵第六十聯隊本部ト一個聯隊ナルモ大隊番號ハ不明。

交替ノ爲メ汽車輸送スルモ人員材料將校馬其他ハ行軍。

六月六日交替結了ノ豫定。

五月二十五日午前四時藤田一等主計鐵嶺ヨリ歸着セリ。其復命スルトコロ左

鐵嶺倉庫位置略圖
縮尺九十分之一

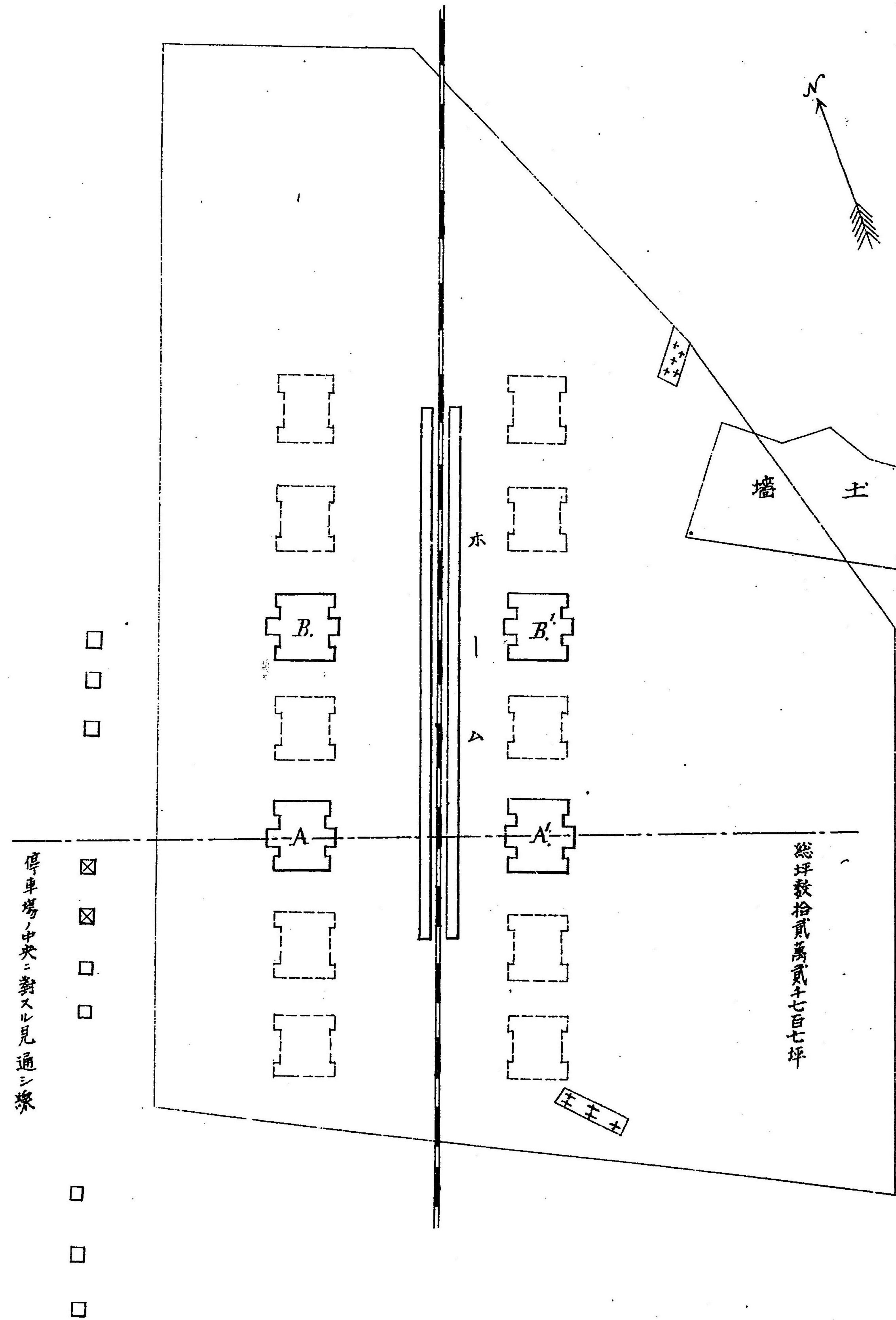


ノ如シ。

鐵嶺前田支庫長ヨリ口頭報告要領於五月十九日

- 一 倉庫敷地ハ別紙圖面ノ通り決定シタク。
- 二 倉庫建築ニ要スル職工ヲ至急送ラレタク。
- 三 先キニ請求シ置キシ山崎、和田ノ技手モ至急送ラレタク。
- 四 建築ト倉庫事務トニテ現在ノ輸卒隊丈デハ間ニ合ハズ。苦力ハ處々ノ關係デドウシテモ最上限五百人以上雇フコトガ出来ヌ故ニ更ニ輸卒一個隊(五百人)送ラレタシ。内地カラ來ルモノアラバ其レデモ宜シイガ否ザレバ遼陽ノ第六隊(第九師團)ヲ前進セシメラレタシ。遼陽モ今ノ所ハ忙シカラウガ鐵道員ノ話ニヨレバ來ル六月一日カラ汽車ハ鐵嶺へ全部(十六列車)直行スルトノコトデモアリ、其時ニナレバ遼陽ニ卸スモノハ少カラウト思フ。若シモ此際一隊モ出來ズトアラバ三個小隊デモ宜シイ。
- 五 貨物ノ卸方ハ此鐵嶺デハ倉庫ノ物ハ倉庫ガヤルコトニシテ居ルノデ之

鐵嶺倉庫位置略圖
縮尺四千五百分一



レダケニ輸卒四百人ヲ要ス。

六 荷卸場ハ倉庫線ノ出來ル迄ハ本線ニ沿フタ處ト倉庫ノ前ノ支線ノ所ト二個所ヲ使用シツ、アル。然ルニ此ハ規模ガ小サイカラ作業ニ困難デア
ル。加フルニ雨ガ降ルト沼ノ様ニナル。ソレデ薪ヲ頻リニ送テ貰フテ下敷ニシテ居ル。保護ノ出來ル丈ハヤツテ居ルガ何分人が足ラヌト又苦力ガ不足ナノデ行届キ兼ル。

七 荷物ハ各軍カラハ一向取りニ來ラズ七八分通り在庫品トナル次第デア
ル。ソレ故毎日片付ケルノニ持テ餘シテ居ル。

八 早ク倉庫線ヲ提理部デ敷設シテ貰ハナケレバナラヌノデアアルガ苦力ガ
拂底ナル故工事が出來ヌ止ムヲ得ズ倉庫ハ苦シイ中カラ提理部へ毎日之
レガ爲メ三百人計リノ苦力ヲ出シテ工事を急ギツ、アル。此月一杯ニハ
完成六ツカシカラシ。右ノ有様デアルカラ此上倉庫ノ建築ガ始マルト尙
苦力ガ入ルノデ誠ニ心配シテ居ル。苦力ハ賃錢ト人ノ數ニ限リアルノデ

大ニ困ツテ居ル。

六五六

九 在來ノ家屋中倉庫トシテ使用シ得ルモノハ無イデハ無イガ之ハ皆病院ニ充テル事ニナツテ居ル。各軍カラモ被服ノ保管ヲシテ吳レトノ照會ガアルケレドモ入レ場ガナキ故鐵嶺ノ市街デ相當ナ家ヲ借リヤウト思フケレドモ未ダ思ハシキ家が見當ラナイ。

十 倉庫ノ宿舍トシテハ第四軍鐵嶺兵站司令部ヨリ四棟配當サレテ居ル。又倉庫地ノ附近ニハ輸卒三隊宿營サセテアルガ段々倉庫員ト輸卒隊ノ増加ヲ要スルニ此ノ狭キ鐵嶺ニ第一第四軍ノ兵站監部ヤ各軍ノ兵站司令部及之ニ要スル守備隊輸卒隊ノ集中セル今日宿舍ニハ誠ニ困ル。此他毎日當地ニ着スル列車ノ率領者(大連營口邊 陽其他ヨリ)丈デモ常ニ百名近クノモノガ來テ居ル。

此頃當地ニ着スル列車ハ晝夜ニ掛ケテ十六列車デ此ノ大部分ハ糧秣デア。少ナク見積ツテ十二列車トシテモ一列車三十貨車デ總貨車數三

百六十ナリ。一貨車二百捆積トシテ日々七萬二千捆ノ割合トナル。此レハ降ツテモ照ツテモ晝夜間斷ナク受入レル貨物デア。

斯様ナ譯故此率領者ノ宿舍丈デモタイシタモノナリ。見ラル、如ク中ニハ此雨中ニ田圃ノ様ナ處デ幕營セルモノアリテ見ルニ忍ビズ。故ニ全バラツクニ建テカケテ居ル。然ルニ材料ガ至テ拂底亞鉛板モ少ナイ。故ニ奉天ニアルモノヲ若干取寄セルコトニ高橋ニ云フテアル。此儀御承知ヲ乞フ高橋ニハ倉庫長カラ人ト物ノ出シ入レハ一々倉庫長ノ命令ガナケレバ出スコトガナラヌト嚴シク訓令ガシテアルサウダガソレハ奉天ヤ遼陽ノ人ヲ多ク取ツタカラデアラウガ夫レデハ一寸融通ガ付キ兼ヘルト思フ。サウ云フ御方針デアレバ此方ヘモ一寸云フテ越シテ貰ヒタイ。實ハサウナルト云フト前方ニ行クモノハ誠ニ困ル。孤立ノ姿デ一向倉庫間ノ協同ト云フコトガナイコトニナツテ一々命令ニ依テマナケレバ仕事ガ出來ヌト云フ窮窟ナ事ニナル。若干ノ人ヲ借リタリ貸シタリスルコトハ以前ノ

六五七

通り許シテ置イテ貰ヒタイ。今俄ニコウ窮窟ニスル必要ハナカラウト思フ。

十一 心臺子ニアル糧秣ハ皆第二軍へ渡シテシマウタ筈デアル。ソレカラ馬蜂溝カラ南老邊ト三屯子へハ日々送り出シテ居ル。南老邊ト三屯子ノモノハ直グニ第二軍へ渡シテ居ル。然ルニ馬蜂溝ニハ水路輸送ノモノガ不足デアルト云フノデ此鐵嶺カラ毎日若干ツ、馬車ヲ送テ居ル。是モ第三軍ノ兵站ニ取リニ來テ吳レト交渉シタケレドモ馬車ガ無イノデ取リニ越セヌト云フコトデ此方カラ馬車ヲ輸送シツ、アル。然ルニ各軍ニ馬車ノ必要ガ一時ニ起ツタ爲メ拂底ナノデ是ニハ大ニ困ツテ居ル。ソレデ彼ノ水路輸送ノ方モ幾分カ餘計送テ貰ツタラバ宜カラウト思フ。

十二 生肉ガ來タ時ニハ着クト同時ニ軍へ迫付イテ取テ貰フテ居ル。然ルニ貨車ガ途中デ殘サレタリスルコトモアルシ、又雨デモ降ルト馬車ガ足ラヌノデ前方へ持テ行ケヌコトガアル。スルト天氣ノ爲ニ腐敗スルコトガ

アル。現ニソレデ大分ニ腐ラシタ。其目方ハ取調べテ報告スル今後トテモ此所へ着クト直グニ隊ニ渡ス時ハ格別故障モナカラウガ各軍兵站ニ渡シ兵站デハ之ヲ馬車ガ一日行程二日行程モ掛ツテ持ツテ行テソレカラ分配スルコトニナルノデアアルカラ其分配スル時分ニハ腐リハセヌカト甚ダ心配シテ居ル。此生肉ノ追送ト云フコトハ此先餘程防腐手段ヲ講セネバナラヌト考ヘル。

十三 加給品ハ頃日時々第何軍ニ若干渡セトノ命令ガ來ル。此ハ其時々命令サル、ノデアアルカ、ソレトモ又軍カラ倉庫長へ特ニ云フテ來タ時ニ限リテ此方へ命令セラル、ノデアアルカ、軍ハ奥へ行ツテ居ルカラ通常糧食ト同様ニ必要デアラウカラ從前ノ通り毎月一人酒五合、煙草百本、甘味品七十五匁ヲ標準トシテドシ、渡スコトヲ出先ノ支庫長ニ任サレタイ。

十四 還送被服ハ鐵嶺デ返納ヲ受ケタ分ハ僅カデアアル。之ハ直ニ大連へ向ケテ送ル。奉天ニアルノハ高橋カラ委細ノ事ヲ報告シタ筈デアアル。

鐵 路

日 誌	正 月							日		
	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一
鐵 道 水 道										
鐵 道 貨 物										
基 礎 工 事										
林 業 採 集										
鐵 道 貨 物										
鐵 道 貨 物										
天 氣 災 害										
出 入 口 貨 物										
不 水 工 事										
鐵 道 貨 物										

クラ使テ居ル御承認ヲ願ヒタイ。

輕便鐵道ハ輸卒隊ニ敷設サセテ現ニ使用シツ、ナルガ成績甚ダ宜シイ。

十九 倉庫地ノ周圍ニ壕ヲ掘リ土堤ヲ築ケバーハ倉庫地ノ排水溝トナリ又

警戒ニモヨイ此レハ輸卒隊ヲシテ拵ニサセル。

右ニ付鐵嶺前田支庫長へ電報午前九時五分大連發

藤田歸着セリ。倉庫建築ノ諸件全部同意ナリ。雨期目前ニ迫レリ。非常ナ

ル速力ヲ以テ工事ヲ進行セザレバ用ヲ爲サルコト昨年ノ實驗ニ依リ明カ

ナリ。差向キ五千坪ノ建築計畫書(諸準備ト工程表)ヲ作り送付アレ○周圍ニ

壕ヲ掘ルコトハ貴官ノ意見通り成ルベク早ク實行ヲ望ム。

右ニ對シテ後左ノ工程表ヲ提出セリ

五月二十五日 奉天高橋主計ヨリ電報午前九時三十分奉天發

遼陽支庫ヨリ左ノ電アリ○貴庫ニ鹵獲豆アラバ直グ送ラレタシ返○右送リ

テヨキヤ、現在品ハ昨日報告通り尙第二軍ヨリ引續キ受ケツ、アルモノアリ。

右返電。

六六二

遼陽へ左ノ如ク答へヨ○豆ハ此度限り本職ヨリ手續ヲナシタル故送ル。今後物品入用ノ場合ニハ倉庫長へ請求セヨ。

五月二十五日 第二軍兵站經理部長ヨリ電報午前十一時十分奉天發三

鐵嶺附近ニテハ炊爨用燃料現地調辦ノ見込ナク一般ニ缺乏セリ。同地貴倉庫ニテ受領シタシ。若シ貨車輸送六ツカシキトキハ當兵站奉天附近ノ薪ヲ陸送ス。返待ツ。

右返電二十六日午後六時三十分大連發

答、薪ハ差向キ御入用ノ分丈ケ渡ス。續テ渡スコトハ六ツカシ。其譯ハ鐵道提理部ニテ輸送ヲ承知セザル故ナリ。

同時ニ鐵嶺前田支庫長へ電報。

燃料ノ薪ヲ第二軍兵站經理部長ヨリ請求アリシ故左ノ如ク答へタリ。(以下前項ニ同シ)

同二十五日 奉天木村第二軍兵站經理部長ヨリ電報午後四時五分奉天發五

目下雨覆不足ノ爲メ困リ居ルニ付二百枚丈受領出來ザルヤ。御都合付カバ鐵嶺ニ出張シアル當部宇田主計へ至急交付セラレタシ。

右返電

答、雨覆小二百鐵嶺ニテ渡ス。此ハ特別保管品故野戰經理長官へ請求シ置カレタシ。

同時ニ鐵嶺前田支庫長へ電報。

雨覆小二百第二ノ兵站宇田へ渡セ。

同二十五日 第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後二時十分法庫門發

加給品前方ニ送り過ぎ後方ニ少ナシ。若干ツ、關外ニテ送ラレタシ。

右ニ付、答、加給品關外ニテ早速送ルト返電シ、尙ホ金子營口支庫長へ左ノ如ク電報セリ。

今後關外線ニテ若干ツ、加給品ヲ送レ。

六六三

五月二十五日 辻村遼東兵站經理部長ヨリ左ノ通牒アリ。

本月十五日鐵嶺及其附近ニ於テ滿洲軍倉庫ノ爲メ假倉庫約八千坪建築申請ノ件五月二十四日其筋ヨリ認可相成候ニ付御了承有之度

追テ該工事ニ關シテハ戰地陸軍建築部ト直接交渉ノ上竣工ノ際ハ其旨當部へ報告相成度

右ニ付鐵嶺前田支庫長へ電報午後八時三十分大連發

八千坪ノ倉庫建築ハ二十四日附ニテ許可セラレタリ。

同二十五日 小野遼陽支庫長ヨリ電報午後三時五十分遼陽發

橋頭兵站司令部前進ニ付黃泥崗ニアル薪約四萬貫ヲ當倉庫ニ返納致シタシト同部ヨリ照會アリ。之ニ對シ兵站經理部長ヨリ貴官ニ直接協議スル様回答シ置ケリ。黃泥崗ハ遼陽ノ東南約十二里ノ處ニテ此ノ薪ヲ遼陽ニ運ブニハ百斤ニ付約二圓ノ運賃ヲ要ス。又同地附近ニハ之ヲ給與スベキ部隊ナン。同二十五日 金子營口支庫長ヨリ電報午後四時五十分家屯發

新民高力屯間「トロック」ニ使用スル苦力監視トシテ新民屯守備隊ノ輸卒ヲ使ヒ吳レヨト同隊長ノ要求(業務ナキニ苦ミ居ル故)アリタル趣米田ヨリ電アリ。之ニ應ジタシ。之ヲ使フ場合ニハ麥藁帽子一個ツ、貸與シタシ。御許可ヲ乞フ。但シ被服ハ夏ノ軍服ヲ着レバ差支ナカラシ。

右ニ關シ、同三十一日又左ノ電報アリ。

新民ノ守備隊輸卒「トロック」監視ニ用ユルコト差支アラバ三十名計リ輸卒派遣ノ必要アリ。否ヤ御返電ヲ乞フ。

右返電 六月一日

答、新民守備隊輸卒「トロック」用ノ帽子買入ノ件承知ス。員數ト單價ト報告セヨ。

右ニ對シ左ノ報告アリ。

新民屯ニテ買入ル、夏帽子百個(一個貳拾五錢)ナリ。

同二十五日 曇ニ倉庫附トナリシ一等主計岡本與明赴任出發ノ期日ヲ静岡歩

兵第三十四聯隊長へ問合せタルニ「明日立ッ」トノ返電ヲ得タリ。

五月二十五日 新民屯米田主計ヨリ電報午後十時四十分 新民屯發

此地停車場内北方ノ地點ニ選定セシ我荷卸場レール繼合セ延長工事今出來上リ全長七百呎トナレリ。二十噸貨車二輛ヲ入ル、コトヲ得。驛長ハ家族引纏メノ爲メ山海關ニ行キ不在ナルガ、エンヂニアニ厚ク禮ヲ述べ置ケリ。○明日ヨリ此所ニテ全部荷卸シヲナス。○經便線ハ此ノレールノ尖端ト道路ヲ隔テ、丁字形ヲナシ、此所ヲ輕便線ノ搭載所トセリ。

同二十五日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後八時三十分 鐵嶺發

倉庫材料八分通り着ク。杭打ハ終リ明日ヨリ土盛リト周圍ノ壕ニ(水ハケ)着手ス。「ブッシュ」ノ事務員ト大工ハ來ダ一人モ着カス。

右ニ付金子營口支庫長へ電報

鐵嶺へ「ブッシュ」ノ代人モ大工モ一人モ着カヌト前田ヨリ申來レリ。至急出發セシムベシ。

同二十五日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後六時五十分 鐵嶺發

大江部長ヨリ小塔子ニ糧秣ヲ積ム爲メ雨覆一千枚ノ要求アリ。交付シ差支ナキヤ○當倉庫宛ノ雨覆ハ一千五百枚ノ由ナレドモ今日ノ有様ニテハ尙ニ三千枚増加ヲ要スル見込ミ。

同日第三軍兵站經理部長ヨリ亦左ノ電報アリ午後十一時三十分 法庫門發

去ル二十三日小塔子へ倉庫員ヲ派遣シ陸揚場ト糧秣集積所ノ設備及ビ此間ニ輕便鐵道ノ敷設ニ着手シ來ル二十七日頃ニハ略ボ準備出來ル見込ミ。然ルニ糧秣ハ皆露天積ミナレバ差當リ必要ナルモノハ雨覆ナリ。今當部ニテ此ノ方面ニ用ヒラル、雨覆八百枚ニ過ギズ。之レバカリデハ二十五日分ヲ覆ヒ得ルニ過ギズ。就テハ雨覆大千枚御都合頼ム此事ハ前田へモ電報セリ。吉井主計ハ今小塔子ニ居ル。

右返電午後十二時 大連發

答、貴官ノ請求ニ依リ雨覆一千枚渡スコトヲ鐵嶺へ命ジ置キタリ。此ノ雨覆

ハ特別保管ノ命ヲ受ケ居ル故貴官ヨリ野戦經理長官へ請求シ置カレタシ、
同時ニ前田支庫長へ返電。

答、雨覆一千大江部長へ渡スベシ。但シ此雨覆ハ特別保管品ナル故直グ野戦
經理長官へ申請セラル、様同部長へ要求シ置ケ。

後第三軍兵站經理部長ヨリ左ノ電報アリ時三十分法庫門發
左ノ通り經理長官へ電報シ置ケリ。御承知アリタシ。

○水路輸送ニ依ル糧秣全部ハ小塔子ニ集積スルコト、ナレリ。同地ハ家屋
少ナク凡テ露天集積ナル故數多ノ雨覆ヲ要シ千枚目匹ニ協議セシニ貴官ヨ
リ特別保管ヲ命ゼラレアルモノナレバ貴官へ請求アレトノコトナリ。交付
方命令ヲ乞フ。尤モ昨今雨降りニテ差支ユル故内幾分ハ融通ヲ受ケ居レリ。

五月二十五日 小野遼陽支庫長ヨリ電報午後一時五分遼陽發
鐵嶺奉天ニアル鹵獲品ハ當支庫釀造部用トシテ逐次受入レノコトニ致シタ
シ、返。

右ニ對シ直ニ大豆一千石鐵嶺ヨリ送ラシムト返電、尙ホ鐵嶺前田支庫長ハ、犬
豆一千石遼陽へ送レト電報セリ。

同二十五日 第四軍兵站經理部長ヨリ電報午前十時四分奉天發
米ノ飯變敗豫防材料米醋酸當軍ノ爲メ二百貫至急渡サレタシ。

右ニ付、答、米醋酸ハ追送品ナシ到着セバ御渡シ申スト返電セシニ同日午後六時
五十分奉天發ニテ米醋酸ハ何時頃到着ノ御見込ナリヤトノ電報アリ。依テ「イ
ツ來ルカ未ダ分ラヌ」ト返電セリ。

同二十五日 倉庫本部ニ於テ會報ヲ開ク。其要領左ノ如シ。

- 一 報告ハ單簡ニシテ受報者ノヨク了得シ得ラル、ヲヨシトス。毎日爲ス
ベキ業務報告ノ如キ鉛筆ニテ記載スルヲ以テ足レリトス。
- 二 夜巡ノ報告ニハ是迄異狀ナシ……………ノミナリシガ昨夜巡察ノ第六
隊ノ宮野憲兵伍長ノ報告ニ「山手第二十三號倉庫ノ錠前ノ破損シタルニ氣
付キ其附近ニアル歩哨ニ尋ネタルニ餘程以前ヨリ破損シアリトノコト戸

- 縮ハ内方ヨリナシアリ」ト伍長ノ巡察勤務ハ能ク勤メタリト云フベシ。
- 三 大連灣ト營口間ノ海路輸送ハ是迄大連、柳樹屯各半分ヅ、出シツ、アリシガ大連港ノ都合ニヨリ主トシテ柳樹屯ヨリ、小部分ハ大連ヨリナスコトトナレリ。兩方共上積ミニ薪ヲ積ムコト。
- 四 鎮南浦ヨリ龍巖浦ヲ經テ大連ニ來ル運送船一艘アリ。
- 五 鐵嶺ニ更ニ建築セラルベキ八千坪ノ倉庫ハ陸軍大臣ヨリ許可セラレタリ。
- 六 當地ニ於テ購買スル鹽鯛ノ代金ハ供給者ニヨリテ左ノ如キ差異アリ。百匁ノ代貳拾錢 拾四錢五厘 拾錢 買物ニ就テハ各隊共注意ヲ要ス。
- 七 營口ニテ試製シタル甘酒ハ二回共稍酸味ヲ帶ビ居タリ。故ニ今後ハ麴ニテ渡ス(輸卒隊ヘ)コトヲ試ムル筈。
- 八 西棧橋ヨリ海送スル糧秣ハ海岸ニ於テ中繼所ヲ選定スルヲ要ス。其位

置ハ碇泊場ト協議スルコト。

右五月二十四日第八師團第六輸卒隊憲兵伍長宮野友治夜巡中山手第二十三號倉庫東入口及ビ西入口ノ二個所ノ錠前破損セルヲ認メ其修繕取締方ヲ報告シタルハ能ク巡察ノ任務ヲ盡クシタルモノナリ倉庫長ハ之ニ對シテ特ニ其注意ノ周到ナルコトヲ賞セリ。

五月二十六日 新民屯米田主計ヨリ電報午前十一時 新民發

大江部長ヨリ支那人夫ナドノ用ユル雨外套取調方依頼サレタルニ對シ返電セシニ左ノ電アリ。買入レ差支ナキヤ○過日取調方頼ミタル雨合羽一千枚買入レ前送頼ム。

右ニ對シ「大江部長ヨリノ雨合羽依託購買ニ應ジテヨシ」ト返電セリ。

同二十六日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後二時二十分 鐵嶺發

昨夜ヨリ大雨降り夜四時着ク筈ノ十五列(七時着車米八割麥五干草三貨車ハ雨覆ナキ爲メ濡レテ來タ。其他ニハ今迄濡ラシタモノハナイ○降雨ノ時穿

カシムル爲メ草鞋五千足請求ス。急送アリタシ。○輸卒隊増加ノ爲メ雨中
襪履ノ保護ヲ出來ル。深ク感謝ス。

右返電 午後五時二十
五分大連發

答草鞋五千足ハ本日十五列ニテ送ル。

五月二十六日 第八師團岡田經理部長ヨリ電報 午後零時四十分
一ツリカコウナシ發

機關砲隊金櫃一、公用行李三、炊具乙一組、縫靴工具各一貴庫ヨリ受ケタシ。在庫
品アタバ鐵嶺へ急送セラレタシ。至急返待ツ。

右返電 午後二時二十
五分大連發

答乙號炊具ヲ鐵嶺へ送ル。其他ハ在庫品ナシ。

同二十六日 奉天第二軍兵站經理部長ヨリ電報 午後三時
奉天發

蘇家屯附近ニアル鹵獲品ハ當軍給養ニ用ヒ盡シ難キ程極メテ多數ニシテ且
ツ停車場ノ附近ナルヲ以テ後來必要ニ應ジ前途後送共鐵道ニ依ルヲ便利ト
存ゼラル。當兵站ハ該地ヲ至急引揚ルノ要アリ。差支ナクハ該地ニテ引繼

ギ致シタシ。

右返電 時二十八日午後一
時大連發

答蘇家屯附近ニアル鹵獲品ハ奉天ニテ受取ルコトニシタシ。

同二十六日 在奉天片山總經理部長ヨリ電報 午前十一時二
十分奉天發

目下貴倉庫保管中ノ方錐形天幕今後各軍ニ補給シ得ベキ員數電報アレ。

右ニ付鐵嶺前田支庫長へ電報 午後十一
時大連發

方錐形天幕第二句報ノ殘八十八準備品カ若クハ他ニ渡スベキ品カ返。

右ニ對シ左ノ返電アリ 二十七
日午後七時鐵嶺發

答方錐形天幕第二句殘リ八十ノ内三十八支庫用トシタシ。他ハ外へ交付シ
得ル數ナリ。○是迄ノ受入總數二百七十一ノ内三十支庫用トシテ百九十三第
二軍へ渡シ現在四十八アリ。

右ニ付大連本倉庫ノ在庫品ヲ加ヘテ總經理部長へ左ノ如ク返電セリ 午後六時
大連發

答方錐形天幕各軍へ補給シ得ベキ數六十一枚アリ。

五月二十六日 金子營口支庫長ヨリ左ノ電報アリ午後三時

倉庫谷樋新設計ノ分ハ今日ノ強風雨ニモ差支ナシ。

同二十六日 毎田柳樹屯支庫長ヨリ電報午後九時二十

本日強風ノ爲メ倉庫亞鉛屋根大破セリ。一時ノ防ギハ施シタルモ其儘ニ措

カレズ。大工若干至急差廻サル、様其筋へ請求アリタシ。

同二十六日 鐵嶺前田支庫長ヨリ磨工矢川辰太郎今着イタ何レニ配屬セラレ
ベキヤトノ電報ニ對シ其地ニ止メ置クベキ旨返電セリ。

同二十六日 橋元奉天支庫長ヨリ電報午後七時十

奉天兵站病院ヨリ傳染病室附職員豫防用トシテ上靴代リニ使用スルニ付ウ
一ラ靴又ハ古短靴アラバ渡サレタキ旨請求アリ。渡シテ宜キヤ〇在庫ウ

ラ靴約五千短靴四千アリ(二品共古)

右返電時二十八日午後一

病室ノ靴ハ兵站經理部ヲ經テ請求スル様返事スベシ。

同二十六日 營口味噌ノ件ニ付第二軍兵站經理部長ヨリ左ノ通知アリ(摘要)

- 一 生味噌酸味ヲ帶ビ供給ヲ厭忌スルノ傾キアリ。
- 二 容器不完全ナリ。

右改良アラシコトヲ望ム。

依テ營口支庫長へ其旨通報アリ。

五月二十七日 金子營口支庫長ヨリ電報午前八時二十

引續キ雨天ニテ水路ハ全ク出デズ關外モ抄々シカラズ。東清ノ三百十三列
ノ豫備車一及材料車十二所用ノ糧秣ヲ積載セザルモ差支ナキヤ。但シ三百
十五列モ約三十個師團ノ副食ヲ積ミ得。

右ニ對シ直ニ關外ト水路ノ如何ニ拘ラズ東清鐵道ノ輸送ハ豫定通り實行スベ
シト返電セリ。

同二十七日 金子營口支庫長ヨリ電報午前十一時五

防寒被服三千七百三十八樞ヲ積ミタル安藤山丸(宇品行)ハ二十五日一旦出帆シタルモ暴風ノ爲メ引返シ本日ハ海上危険ノ報ニ接シタル故營口沖ニ待命中ナリ。

五月二十七日 鐵嶺ノ倉庫建築ノ件ニ關シ在安東縣石井建築部長ヨリ電報アリ、依テ左ノ如ク電報セリ午後三時十分大連發

鐵嶺ノ柱ハ末口六寸ノ丸太ト六寸角ト柱ハ五寸角ナリ〇八千坪ハ其筋ヨリ認可済ミナリ。長サハ三連モノニテ願ヒタシ。輸送ハ當方ニテ引請ケル〇青屋根(倉庫本部ニ充ツベキ家屋)ノ内部ニ少シツ、ノ修理ヲ要スルモ班(連大築一班)ニテハ承知セザル故些細ナルコトハ下官ノ請求ニ應ズル様班長ヘ電命アリタシ。

右ニ對シ左ノ返電アリ午後七時十分安東縣發

鐵嶺ノ倉庫建設ハ成ルベク貴官ノ希望通り執行ノ筈ナリ。又佐澤班長(在鐵嶺築四班)ヘハ建設ニ就テ協議スル様電命セリ。

依テ其旨直ニ鐵嶺支庫長ヘ電報セリ。

同二十七日 第二軍兵站經理部長ヨリ電報午後一時二十分奉天發

軍經理部長ヨリ左ノ電報アリタルニヨリ現品ハ悉ク鐵嶺ニテ受領シタシ。何日頃交付セラシ、ヤ〇雨覆大八十一小千百四十五枚兵站用トシテ貴部ニ交付ス。現品ハ満倉ヨリ受領スベシ。

右ニ付鐵嶺前田支庫長ヘ電報午後六時十分大連發

第二軍渡シ雨覆ヲ殘ラズ田口主計ヘ渡セシヤ返。

右返電午後十時十分鐵嶺發

第二軍用雨覆ハ去ル二十五日田口主計ニ交付方談ゼシモ今ニ受取ラズ。今日軍經理部長ヘ其旨通報シ置ケリ。

右ニ依リ第二軍兵站經理部長ヘ返電

答、雨覆經長四〇五號ノ分大二百八十五小千二百田口主計ヘ渡ス様當倉庫鐵嶺出張所ヘ命令シ置ケリ。此外ニ貴軍ヘ渡スベキ品ナシ。

五月二十七日 曩ニ倉庫附トナリシ三等主計柳本鶴三郎ノ赴任期日ヲ間ヒ合セタルニ對馬警備隊ヨリ二十五日當地出發ストノ返電アリ。

同二十七日 遼東兵站經理部長ヨリ左ノ通牒アリ。

五月二十六日野戰經理長官ヨリ遼東兵站經理部長ヘ電報

滿倉四月下旬々報受ノ部奉天城内ヘ號倉庫戰利品中アンペラ製ノ炭十四個入百梱アリ。石炭ノ積込等ニ利用シ得ルモノナレバ撫順炭坑ニ必要アリ。取調ベ返電アレ。

右ニ付橋元奉天支庫長ヘ電報午前十一時五分大連發

アンペラ炭十四個入り百梱ヘ號倉庫ニ現在スルカ○此品ハ撫順炭坑用ニ應用シ得ベキヤ。直グ返。

右返電午後五時五十分奉天發

アンペラ炭現存ス。保存短キモ石炭運搬ニハ最適當品ナリ。

依テ其旨遼東兵站經理部長ヘ回答セリ。

同二十七日 高力屯村岡主計ヨリ電報午後八時五十分高力屯發

昨今強風ノ爲メ水陸共輸送ナシ○薪炭ノ外現在ナシ。

同二十七日 大連碇泊場司令部ヨリ電話ニテ左ノ通報アリ。

一 本日午前九時發其筋ノ電命ニ依リ大連營口間及内地ヨリ大連營口ニ來ル船舶ノ航行ヲ中止セラル。

二 他ノ方面ヨリノ噂ニ依レバ敵艦來襲ノ虞アルヲ以テナリト。又此狀況

ハ營ニ兩三日ニアラズ當分繼續スルナラン。

右ニ付今後ノ輸送ニ關シテハ更ニ示ス所アルベキ旨金子營口支庫長并ニ鐵嶺前田支庫長ヘ電報セリ。

同日午後十時又左ノ通報アリ。依テ直ニ各支庫出張所長ヘ電報セリ。

對島附近ニテ只今午後二時激戰中○敵艦隊ハ午後四時二十分陣形ヲ亂シ北ニ向ヒ逃ケ去ラントス。我ハ之ヲ追擊中。

同二十七日 金子營口支庫長ヘ訓示。

此訓示ハ被服事務打合ノ爲メ前方各支庫へ出張ヲ命ジタル黒木一等計手ニ持參セシメタリ。

- 一 遼陽支庫ヨリ注文セシト云フ多數ノ職工ト買入物(醬油 礦造用)ニ就テハ今取調中營口ニ現存スル品ヲ買入レ現存スル人ヲ雇フコトハ異論ナキモ内地ニテ買入レ若クハ雇入ル、ハ不穩當ナリ。
- 曩キニ其話ノ有リシ節營口ニテ買入ル、ナラバ差支ナカルベキモ内地へ委託スルコトハ後ニ面倒ヲ惹キ起ス故能ク前田ニ注意セシ筈ナリ然ルニ今多數ノ人ト品物ヲ積ミ來ルトアリテハ此老人ガ心配スル斯様ナ事ニ對シテハ大膽ニアラズシテ極メテ小心ナリ今後ノコトハ取調ノ上通知スルモ根本ノ趣意ハ間違ナキ様致サルベシ。
- 二 營口味噌ニ就テハ前方ノ或ル軍ニテノ批評ヲ其儘貴官ニ廻セルガ實質モ梱包モ今一段改良セザルベカラズ曾テ藤田ガ鴨軍ヲ巡視セル復命ニ照スモ同様ナリ此際至急適當ノ處置アラントヲ望ム。

三 生肉ハ各軍ニテ臭氣ヲ發スルト云フ其都度鐵嶺支庫長ト電報ニテ打合セノ上發送スルヲ要ス。

五月二十七日 各支庫長へ左ノ件ニ付訓令ス。

- 一 被服事務ノ連絡ヲ取ルコト
 - 二 特使ヲ廢シ成ルベク郵便ヲ利用スルコト
- 但特別ノ場合ニハ此限リニアラズ

同二十八日 第三軍兵站經理部長ヨリ電報午前零時五分 法庫門發

夏服ト着替ヘテ不用トナリタル絨衣袴ハ(一)修理ヲ要セザルモノ(二)幾分修理ヲスレバ再用ノ見込アルモノ(三)修理ニ掛ラヌモノ、三種ニ分チ(一)ハ最寄貴倉庫へ委託ス。嘗テ貴倉庫デハ修理ハ出來ストノ御話モアリタルコトナレバ(二)以下ハ還送スルコト、セン。御意見承知シタシ。命令ノ都合アリ。直グ返。

右返電午前二時十分 大連發

答不用トナリタル冬服ハ凡テ御意見ノ通りニテヨカルベシト思フ。

五月二十八日 片山總經理部長ヨリ電報午前十時四分發

營口ニアル支那臺灣米ハ如何ニシ居リツ、アルカ。又搗精ハ目下中止シ居ルヤ。

右返電午後零時十分發

答支那臺灣共米ノ前送ハ一時見合セアリシガ昨日來海路交通絶エ營口ノ品物乏シクナルベキニ付此支那臺灣共米ヲ關外鐵道ノ輸送品ニ充ツルコトニセリ○搗精ハ新ニ簽据付ケノ爲メ目下一時中止シアリ。

同時ニ金子營口支庫長へ電報。

昨日來海路絶エタル故營口ノ品ガ乏シクナルベキニ付關外ノ輸送ニハ當分主トシテ支那白米ヲ積込ムベシ。

然ルニ片山總經理部長ヨリ左ノ電報アリ午後五時十分發

營口ニアル支那臺灣共米ハ將來賣却ノ見込ニ付成ルベク前送ヲ見合ハスベシ。

シ。

右ニ付更ニ金子營口支庫長へ電報午後六時大連發

總經理部長ヨリ只今左ノ電アリ○營口ニアル支那臺灣共米ハ將來賣却ノ見込ニ付成ルベク前送ヲ見合スベシ○右ニ付關外線ハ輸送ヲ繼續スル迄ニシテ差向キ是迄ノ品ヲ成ル丈ケ少ク積ミ込ムコトニ取計アレ。

同二十八日 第二軍遼陽兵站司令官ヨリ電報午後四時遼陽發

當兵站倉庫在庫戰利品(石炭外六點)貴倉庫へ引渡シタキニ付御承認アリタシ
○該品ハ遼陽ニテ引繼キ致スベキニヨリ引繼キスベキ當事者折返シ御指示アリタシ。

越エテ三十一日又左ノ電報アリ午前十一時三十分遼陽發

一昨二十九日(實ハ二十八日)戰利品引繼キノ件ニ付電報セシニ今ニ何等ノ返電ナシ當部閉鎖準備中ニテ兵站經理部長ヨリ引繼ギ方直接遼陽支庫へ交渉スベキ命ニヨリ該支庫へ交渉セシニ大連ノ倉庫長ニ交渉アリタシトノ事ニ

テ電報セシ次第故至急何分返アリタシ。又遼陽支庫へ引繼ぎルコトオ
ラバ同所へモ其旨通知アリタシ。○戰利品ハ石炭、蕎麥、挽割麥、穀粟、豆粕、豆油、
右返電三十一日午後
二時大連發

答、戰利品石炭外六品ハ貴電ニ依リ貴軍兵站經理部長ヨリ請求アリシモノト
シ遼陽ニテ受入ルコト承知ス。

同時ニ遼陽支庫長へ電報

第三軍ノ遼陽兵站司令部ヨリ戰利品石炭、蕎麥、挽割麥、穀粟、豆粕、豆油ヲ遼陽ニ
テ引繼ぎノ申込アルトキハ受領スベシ。

五月二十八日 鐵嶺前田支庫長へ電報午後八時四十分
五分大連發

薪ハマダ入ルカ。長ク送ルコト出來ヌ。太ク短ク送ル。皆テ何貨車入ルカ
返

右ニ對シ左ノ返電アリ二十九日午後四時
十五分鐵嶺發

答、下敷用薪ノ所要見込千三百二十三貨車。内譯左ノ如シ。假プラットホー

ム下敷三千坪、一坪十七束ノ割ニテ五萬千束。半永久的野積六百基(一基二千
捆ヲ積ムモノトシテ毎日四萬捆ヲ積ムヲ要スル見込)一個月六百基一基四
百十束ヲ要スル割ニテ二十四萬束計二十九萬千束。一貨車ノ積載量三百三
十束ナル故本文ノ如シ。目下ノ現在數ハ少ナシ。

同二十八日 奉天第四軍兵站經理部長ヨリ電報午後八時六分
奉天發

酒ト味噌ハ鐵嶺支庫ニ在庫品アル旨前田支庫長ヨリ通知アリシヲ以テ當部
ヨリノ委託購買ハ中止セラレタシ。

右金子營口支庫長へ電報セリ。

五月二十九日 金子營口支庫長ヨリ電報午前八時十五分
奉天發

大石橋ニアル福井(毓吉)計手ハ昨日入院ス。○齊藤(壽秀)看護長ハ本日後送ニナ
ル筈。

次デ又左ノ電報アリ。

新民屯ヨリ左ノ電アリ。○今日ハ水増シタル爲メ積ミ出シタル馬車ハ皆引返

ス。「レール」モ崩レタリ。馬車ハ二三日輸送出來ヌ有様。「レール」ハ工兵修理シアリ。

右片山總經理部長、辻村遼東兵站經理部長、大江第三軍兵站經理部長及前田支庫長へ電報セリ。

五月二十九日 營口、遼陽、鐵嶺ノ各支庫長へ電報午後十時大連發

本職ニ對スル報告ニ限リ今日ヨリ(コム、フ、ケ)ノ現在報告ニ干草(ク)ヲ加フ。一馬三百匁、一個師團分千五百貫ノ割ナリ。

同二十九日 片山總經理部長ヨリ電報午前十一時三十分奉天發

貴倉庫糧秣現在高ハ毎旬當部へ報告スルト同時ニ經理長官へモ電報アレ。

同二十九日 金山第四軍兵站經理部長ヨリ電報午前十一時四十分奉天發

壓搾茶百二十貫、甘味品九百貫奉天へ輸送アリタシ。奉天支庫ニハ在庫品ナシ。若シ輸送出來ザレバ現地調辦トス。返待ツ。

右ニ付小野遼陽支庫長へ電報午後一時大連發

茶百二十貫、甘味品九百貫奉天支庫へ送付スベシ。

斯クテ第四軍兵站經理部長へ左ノ如ク返電ス三十分日午後四時大連發

答、壓搾茶百二十貫、甘味品九百貫、早速奉天支庫へ送ル。時日極リ次第更ニ電報ス。

同二十九日 橋元奉天支庫長ヨリ電報午後一時奉天發

近衛師團經理部長ヨリ石鹼委託購買方申來リタルニ付取調べタルニ差支ナク出來ル見込ミナレドモ一應貴官ニ照會セラレタキ旨返シ置キタリ。御承知アリタシ。

右返電午前零時四十分大連發

答、近衛部長ヨリノ石鹼購買ノ委託ニ應ズベシ。

同二十九日 橋元奉天支庫長へ電報午後一時大連發

鐵嶺ニハ多數糧秣ノ集積ヲ要スル故若シ其地ニテ空車ヲ鐵嶺ニ運バル、如キ場合ニハ之ニ米若クハ麥等ヲ積込ムベシ。

五月二十九日 小野遼陽支庫長ヨリ電報午後二時五分遼陽發

先キニ總軍司令部ヨリ保管ヲ委託セラレタル太子河鐵橋上流ニテ支那シヤンクハ永ク使用セザルトキハ追々破損ヲ生ジ且ツ増水ノ際流失ノ恐レモアリ(豫防方ハ講シアルモ)其他番兵番人ノ手數少カラズ。此際其筋ニ於テ使用ノ途ヲ講ゼラレンコトヲ望ム○右意見提出ス。

同二十九日 金子營口支庫長ヨリ電報午後三時十五分家屯發

江口獸醫神經衰弱ニテ明日入院ス。之ニテ獸醫部ハ空虛トナル○山崎計手、看護長、雇員、從卒ト消防夫九名着イタ。

右ニ付遼陽支庫ニアル飯田歸鐵工長ヲ一時營口支庫附トセリ。

同二十九日 金山第四軍兵站經理部長ヨリ電報午後五時十分奉天發

鹽鑄貴倉庫ニ現在品アラバ輸送アリタシ。若シ無ケレバ鐵嶺ニテ購買スル見込ミ。返待ツ。

右返電午後十時三十分大連發

答、鹽鑄ハ倉庫ニ澤山アリ。明晩大連發ノ汽車ニテ鐵嶺ニ送ル故同地ニテ受取ラレタシ。

同二十九日 橋元奉天支庫長ヨリ電報午後七時八分奉天發

鐵嶺倉庫建築用トシテ鹵獲材木ノ内丸太約三百入用ノ旨本日前田工學士來リ請求アリ送ルコトニ取計ヒテヨキヤ。

右ニ付鹵獲丸太三百鐵嶺へ渡セト返電セリ。

同二十九日正午碇泊場司令部ヨリ電話。

明日ヨリ大連灣營口間運送船航行ヲナス。差當リ明日ハ九艘出帆ノ筈。内二艘ハ柳樹屯ヨリス。

右ニ付鐵道提理部武內副提理へ左ノ如ク申送ル。

唯今碇泊場司令部ヨリ電話アリ。明日ヨリ大連灣營口間ノ運送船出ヅルコトニナリシ故過日御約束セシ船舶運送中止間ニ於ケル大連ヨリノ鐵道力増加ノ件ハ御心配ニ及バヌコト、ナレリ。

同時ニ辻村經理部長へ電話。

明日ヨリ大連灣發營口行運送船出ヅルコト、ナレリ。御安心アリタシ。

尙ホ營口金子、鐵嶺前田兩支庫長へ電報午後零時三十分大連發

海戰ハ大勝利ヲ得明日ヨリ大連、營口間ノ海路輸送ハ元ニ復セラル。

次デ又金子營口支庫長へ左ノ如ク電報ス午後一時大連發

北陸、瓊浦日野、長幸、四國、福山、盛航ノ七艘明日大連出帆ノ筈。金澤、須磨ノ浦二

艘ハ本日柳樹屯ニテ搭載中。明日出帆スルナラン。

五月二十九日 大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後零時十五分法庫門發

野戰經理長官ノ命令ニ依リ當兵站へ交付相成ルベキ茶褐外被一萬枚ノ内七

千四百二十枚ハ過日奉天支庫ヨリ交付ヲ受ケタルモ残り二千五百八十枚ハ

何時交付セラル、ヤ。

右ニ付鐵嶺前田支庫長へ電報午後八時大連發

第三軍兵站經理部へ渡セト十三日電セシ外被内七千四百二十八奉天ニテ渡

シ濟ミニ付二千五百八十ヲ渡セ。

然ルニ六月一日ニ至リ大江部長ヨリ更ニ左ノ電報アリ午前十一時五分奉天發

五月二十九日電報セシ茶褐外被七千四百二十奉天支庫ヨリ受ケタリトセシ

ハ鐵嶺支庫ノ誤リニ付訂正ス。

右ニ付同日鐵嶺支庫長ヨリモ左ノ電報アリ午後五時十分鐵嶺發

第三軍用茶褐色外被ハ奉天支庫ニテ未ダ交付シアラズ。故ニ當支庫ニテ七

千四百二十渡シ濟ノ外尙ホ二千五百八十ヲ補給取計フ。御承認アリタシ。

同二十九日 午後五時二十分碓泊場司令部ヨリ電話。

大本營岸本參謀ヨリ電報午前三時三十八分發

海軍大勝利ノ結果

戰艦 擊沈 二 捕獲 二

海防艦及巡洋艦 擊沈 六 捕獲 二

特別艦 擊沈 二 捕獲 一

計拾五隻

捕虜三千以上殘艦尙ホ追撃中我軍ノ損害ハ微少ナリ

五月二十九日 毎田柳樹屯支庫長ヨリ電報午後九時四十分柳樹屯發

銕罐、壓搾馬糧ハ皆野積ミナリ損敗ノ恐レアリ。船毎ニ若干ヅ、送リタシ。

右返電午後十一時五分大連發

答、各軍へ給養ニ堪ユル銕罐ト壓搾馬糧ハ船毎ニ若干ヅ、送リテヨシ。野積ノ品ハ何品ニ限ラズ。凡テアンペラ又ハ雨覆ヲ掛ケ薪ヲ以テ下敷トシ屋形ニ積ミ雨水ノ上部ニ溜ラヌ様ナシ置クベシ。

同二十九日 第八師團經理部長ヨリ電報午後八時五分大連發

當師團ダイバダイシ野戰倉庫煙臺停車場ノ西南約二里ニ現在粟稗約六十二萬貫、薪約三十八萬貫、石炭約二十萬貫アリ。師團前進セシ爲メ不用トナル。貴庫ニ引繼ギタシ。返待ツ。

右返電三十一日夜零時四十分大連發

答、奉天又ハ遼陽へ送付セラレ所在ノ支庫ニテ受領シタシ。返待ツ。

右ニ對シ左ノ電報アリ一日午後三時大連發

草薪引繼ギニ係ル電見タ。目下ノ場合運搬ハ當師團ノ地方ニテハ困難ナリ。成ルベク現地ニテ引繼ギ得ル様特ニ御配慮ヲ乞フ。粉石炭ハ土人ニ拂下グルモ可ナラン。御參考迄。

五月三十日 安東縣出張所ヨリ電報午前九時二十分安東縣發

外察講門子へノ糧秣水路輸送ハ本月盡日限り中止スルコト、ナレリ。

同三十日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前十時二十分鐵嶺發

前田工學士ヲシテ意見具申セシメタ。建築案御決定ノ上ハ入用ノ材料ヲ建築本部ヨリ送付スル様御取計ヲ乞フ。佐澤班長ノ請求モアリ○營口ノ支那大工未ダ着セズ。爲メニ工事進捗セズ。急送方御下命ヲ乞フ。

右ニ付「ブツシユ」ノ支那大工至急鐵嶺へ送ル様取計フベキ旨金子支庫長へ電報セシニ左ノ返電アリ。

過日來「ブツシユ」へ掛合タルモ埒明カズ。本日三十名以上出シ明日ヨリ續イテ送ルコトニセリ三日午後二時十分午後八時十分

本日三百十三列ニテ支那大工二十名三百一列ニテ二十六名鐵嶺ニ送レリ同日午後十時二十分午後十時二十分

右鐵嶺前田支庫長へ電報セリ。

五月三十日 金子營口支庫長ヨリ電報午後八時三十分午後八時三十分

六月一日營口輸送計畫ノ變更ニ付左ノ通り實施致シタシ。準備ノ都合アリ、至急御指示ヲ乞フ。但シ三百三、三百五列ハ夜間ノ積込ミナル故是非米麥ニ致シタシ〇三百一列麥、三百三列米、三百五列麥三百一列割麥十車被服、草其他用トシテ二十車、三百十五列副食。各列車共三十車編成。

翌三十一日 又左ノ電報アリ午後六時四十分午後六時四十分

六月一日輸送計畫變更ニ付昨日電報セシ通り實行シ然ルベキカ。今夕ヨリ積込ミヲ要スルニ付至急何分ノ御返事ヲ乞フ。

右返電同夜零時十分夜零時十分

答、貴地ヨリノ發車數ハマダ確定セズ。若シ貴官ノ電報ノ如クナラバ三百十五列ノ副食ヲ米ニ改ムベシ。其他貴官ノ意見通りニテヨシ。要スルニ貴地ヨリスル東清線ニハ副食ノ前送ハ廢スルコト。

五月三十日 宇品集積倉庫長へ電報

天津丸ニ小麥粉千二百四十六石七斗、黑麵麩一萬三千二百六十六貫ヲ積ミ、三十日出帆セリ。

右ハ悉ク鹵獲品ナリ

五月三十一日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後十一時午後十一時

輸卒隊ノ宿舍用トシテ方錐形天幕三十張、野積地ニテ雨天及停車場勤務者ノ爲メ方錐形天幕三十張、當支庫へ至急御渡シアリタシ〇方錐形天幕ハ當地ニ現在セリ。

右返電午前十一時十分午前十一時十分

答方錐形天幕ハ内三十ヲ拂出シ他ノ三十ハ總經理部長ノ問ニ對シ各軍へ交付シ差支ナキ旨報告シアルモノ、内ナル故同部へ直接ニ交渉ノ上否ヤ申來レ。

同三十一日午前九時三十分鐵道提理部ヨリ電話ニテ左ノ通報アリ。

明六月一日ヨリ仙金寨行列車ヲ第三第十一列ノ二回トス。

右ニ對シ左ノ如ク返辭セリ。

御通報ノ趣承知ス。但シ二列車デハ鴨軍ノ爲メニハ多キニ過グル故必要ニ際シテハ鐵嶺行ニ變更シ得ル様願フコトアルベシ。豫メ御含ミヲ乞フ。

五月三十一日 金子營口支庫長ヨリ電報午前十時五分 家屯發

輕便レール枕木用生松丸太二千本長サ九尺末口四寸モノ一本八拾錢ニテ買入レタシ。至急御認可ヲ乞フ。

右ニ付在安東縣石井建築部長ニ問合セタルニ枕木トナスベキモノナキ旨返電アリ。依テ金子支庫長へ「輕鐵用生松二千本買入レテヨシ」ト返電セリ。

同三十一日 吉田第三軍經理部長ヨリ電報午前十時四分 法庫門發

厚底足袋十六萬足長官部へ請求セシニ直接貴庫へ請求セヨトアリタリ。依テ至急送ラレタシ。

右ニ對シ左ノ如ク電報セリ午後四時四十分 大連發

答、厚底足袋十六萬足御入用トアリ。一萬六千ノ間違ニアラズヤ。當倉庫ニハ皆デ八萬アルノミ。木綿足袋ナレバ六萬アリ。

右返電午後六時十分 法庫門發

答、十六萬足間違ニアラズ。最初長官部へ請求セシハ厚底足袋、護謨底足袋、各八萬ナリ。長官部ヨリハ護謨底足袋準備ナキニ付木綿足袋ニテ代用セヨトアリタリ。故ニ厚底足袋ナクバ木綿足袋ニテモヨシ。送ラレタシ。

翌一日、第三軍經理部長へ電報午後八時 大連發

野戰經理長官ヨリ厚底及木綿足袋各四萬組渡ス様申來レリ。此品ハ今大連ニ在リ。明日迄ニハ鐵嶺ニ向ケ發送スル筈。

同時三鐵嶺前田支庫長へ電報

厚底及木綿足袋各四萬明日午後十時十分發送ス。三軍經理部へ渡セ。

滿洲軍倉庫業務報告第三卷終

滿洲軍倉庫殘務整理所藏版

東京麴町區麴町隼町四番地

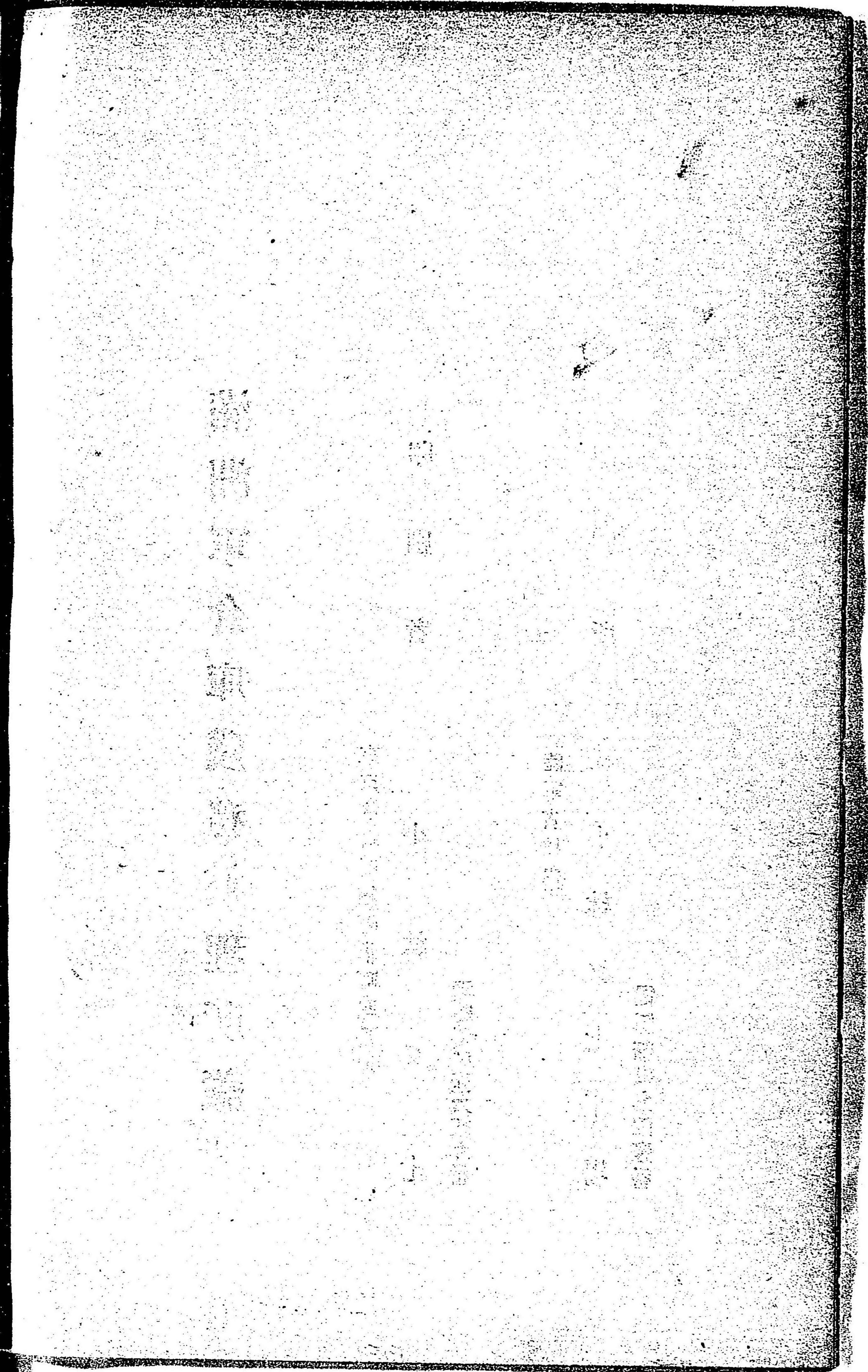
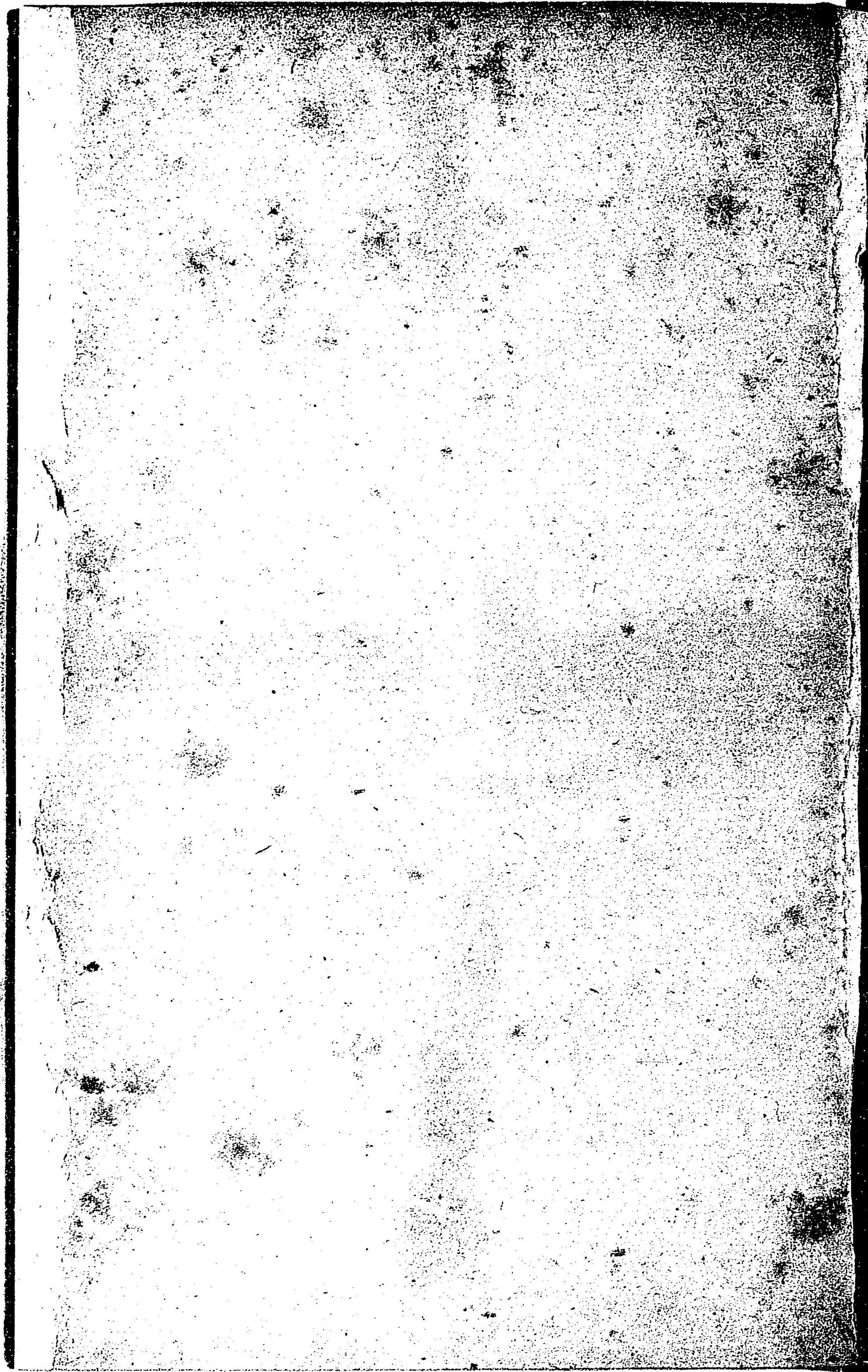
印刷者 小林 又 七

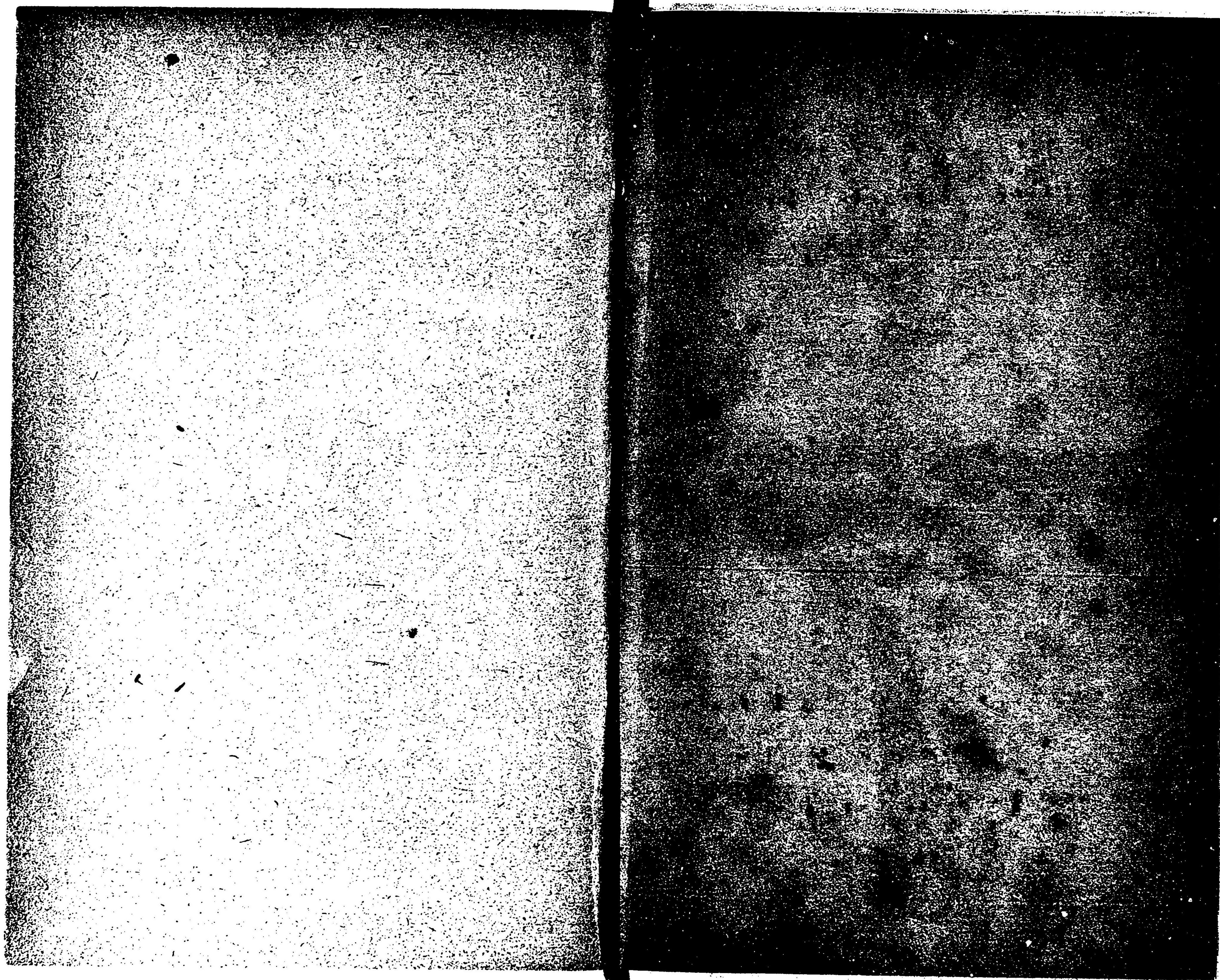
電話番町壹六貳九番

陸軍省構内

印刷所 小林 又 七 工場

電話新橋九四番





CL

NO. 12008

